オリンピック予選の年を迎えて

奮起しろ全日本、敵は己だ

(財) 日本ハンドボール協会副会長　市原 則之

新年も早やひと月が過ぎました。全国のハンドボール愛好者の皆様には日々健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。昨年は日本協会が進める諸事業に対し、深いご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申しあげます。本年も倍旧のご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

さて、全国ハンドボール愛好者の期待を一身に受けて戦った神戸でのアテネ予選は、男女共韓国に引き分けながら今一歩でオリンピック出場を逃して悔し涙で終えましたが、あれから早や３年の歳月が経過いたしました。その間、渡邊会長を中心する協会執行部は、本場ヨーロッパから代表チームの監督として、男子にリマニッチ氏、女子にバウワー氏を招聘し、再度オリンピック出場に向け強化部門と一体となって、国内合宿から国際大会の開催や海外遠征等、数々の強化事業を推進してきました。

中でも、昨年11月に大阪市および大阪協会の協力により実施したジャパンカップでは、男女とも見事優勝し、12月のドーハの第15回アジア競技大会では女子は２大会ぶりにメダル（銅）を獲得しました。

その強化事業の延長線上にある、男子のオリンピックアジア予選会を本年９月に豊田市に招致出来たことは大きな成果で、とりわけ愛知県協会のご尽力に敬意を表し心から感謝申し上げる次第であります。

女子予選については、現在カザフスタンとの情報がアジア連盟から入っていますが、開催地の決定は国際連盟にあり、何とか男子と併せて日本開催が出来ないものかと働きかけを続けているところです。

何れにしろ前回の神戸に引き続き３回連続で、国内で予選を戦えるということは何物にも勝る全日本チーム対する強化支援になることと思います。

また、男女の元日本代表選手諸兄は、師走の大変多忙な12月23日の全日本総合の決勝の前夜、多数名古屋に集結し旧交を温め、同時に現役代表に対し熱いメッセージと共に力強い支援を誓い合いました。

さあ、日本代表選手諸君、環境は整った。これから戦うのは君達だ。今更、環境が如何たら、日本協会が如何たら、監督が如何たら、レフェリングが如何たらと…、泣き言や言い訳を言ってる暇はない。

ガムを噛みながらのパフォーマンスプレーで観客受けを狙う日本リーグと国際試合は雲泥の差。国対国の戦いは命懸けだ。命を懸けて勝ち切る勇気を持て。

予選までの８ヶ月間、心を磨いて精神を鍛えろ。

その心掛けは、日本古来からの伝統的思想文化である武士道の精神だ。「武士の三徳」智と仁と勇を磨け。智とは、人の話をよく聞くこと。仁とは、人のために尽くすこと。勇とは、歯を食いしばり我慢をすること。

これこそチームプレーの精神だ。心中に智仁勇を培い、代表選手としての、恥を知り、誇りを持ち、我慢しろ。

この精神で先輩の代表選手諸兄は、日の丸の重みを背中に背負って、幾多の逆境を乗り越えて戦い、勝ち抜いてきたのだ。

誰に勝つのでもない。己の心に勝ち切るのだ。

ドーハのアジア大会905名の日本選手団の総監督を務める中、日本代表ハンドボールチームの戦いぶりをつぶさに見て、敢えて、君達に檄を与える。

何としてもオリンピックという大舞台に立つんだ。そして、ハンドボールというスポーツを敢えて選んでくれた全国の子供達にも、大きな夢を与えるのだ。絶対にオリンピックに出るんだ。

全国のハンドボール愛好者の皆様、彼らに対し絶大なるご声援とご支援をお願い申し上げます。

速 報 第58回全日本総合選手権大会

2006年12月20日（水）から24日（日）まで愛知県体育館等で開催された第58回全日本総合選手権大会は、男子は大同特殊鋼が11回目、女子はオムロンが10回目の優勝を飾って幕を閉じた。以下、試合結果をお伝えする。

男 子

▼1回戦

日本体育大学　34（16-5、18-16）21　豊田合成
大阪体育大学　27（15-8、12-15）23　大同クラブ
早稲田大学　46（23-14、23-15）29　ＨＣ秋田
ＨＣ岡山　30（11-9、19-15）24　日本大学

▼2回戦

日本体育大学　36（15-14、15-16）32　北陸電力
（2-1 延長 4-1）
ホンダ　31（12-14、19-14）28　大阪体育大学
トヨタ車体　36（19-8、17-9）17　早稲田大学
ホンダ熊本　32（13-8、19-12）20　ＨＣ岡山

▼準々決勝

大同特殊鋼　36（20-14、16-16）30　日本体育大学
トヨタ紡織九州　29（12-12、17-8）20　ホンダ
トヨタ車体　37（12-14、25-16）30　湧永製薬
大崎電気　29（16-12、13-11）23　ホンダ熊本

▼準決勝

大同特殊鋼　35（16-10、19-18）28　トヨタ紡織九州

[戦評]紡織のスローオフ、ゆっくりとした立ち上がりの中、大同は20番白の2連取などで流れをつかんだ。紡織は2番中畠のシュートで10分過ぎ、4－5の1点差に追いつくが、紡織の3－2－1DFに対し、大同のクロス攻撃が有効に決まり、13番季のロング、17番山本のシュート等で得点を重ねる。一方、紡織は20番藤山のロングシュートで反撃するものの、大同GK高木の好セーブにより、リズムをつかむことができず、16－10で前半を終了した。

後半は紡織が大同20番白にマンツーをつけ、一進一退の息詰まる展開となった。紡織は後半から出場の22番泉原の連続得点、20番藤山、7番呉のシュートで残り5分で5点差まで追いついていくが、前半の点差が大きく響き、スピードと高さに勝る大同特殊鋼が勝利を収めた。

大崎電気　41（21-15、20-16）31　トヨタ車体

[戦評] 湧永に勝って勢いに乗るトヨタ車体が立ち上がり香川の速攻で先制。北出、門山と連続ロングシュートも決まり好調な滑り出しで3連取。一方、ディフェンディング・チャンピオンの大崎は宮﨑のGKのタイミングを狂わせるチェンジアップシュートを皮切りに猪妻、豊田、佐藤、永島と5連続得点で反撃。開始11分に北出のロングシュートとカットインで車体は同点に追いつき、その後は一進一退の展開に。試合が動いたのは残り7分。車体、北出、長谷川の退場時に速攻や7mTで大崎は4連続得点の猛攻で前半を21－15とする。

後半に入っても、大崎の勢いは止まらず、車体木下がファインセーブを見せるが、大崎が着実に加点。残り10分、11点差を広げられたところで車体はチームタイムアウトを要求。巻き返しを図り、最後まで食い下がるが、中盤に開いた差を縮めることはできなかった。

▼決勝

大同特殊鋼　39（20-13、19-21）34　大崎電気

［戦評］連覇を狙う昨年度王者・大崎対地元愛知でリベンジに燃える大同と昨年と同一カードで行われた決勝戦は予想通り序盤から接戦の様相を見せた。前半8分で大崎は3枚目のイエローカードを貰う。激しいゲーム展開が予想される中で、大同は着実に得点を積み重ねていく。対して、大崎は大同のプレスDFに、宮﨑、中川を中心にチャンスを作るもGK高木の好セーブに阻まれて前半を20－13の7点差で終えた。

少しでも点差を縮めたい大崎は、後半立ち上がり宮﨑が連続得点をあげるものの、大同は白が追撃を許さず両チームとも一進一退の攻防が続く。大崎は残り9分、白、李にマンツーマンDFを試みるも、大同は終始、冷静にゲームを進め最後は5点差で逃げ切った。

地元愛知の聖なる夜に、フェニックスが大きく舞った。

※大同特殊鋼は5年ぶり11回目の優勝。

写真提供：スポーツイベント社

男子は大同特殊鋼が5年ぶり11回目の優勝
女子はオ ム ロ ンが2年連続10回目の優勝

女　子

▼1回戦

シャトレーゼ　31（14-9、17-5）14　茨城大学

東京女子体育大学　28（12-16、16-8）24　ＨＣ名古屋

MIE violet' IRIS　28（15-10、13-11）21　ＨＣ岡山

筑波大学　22（11-12、11-8）20　香川銀行 T.H.

▼準々決勝

オムロン　42（22-6、20-7）13　シャトレーゼ

北國銀行　29（15-17、14-10）27　東京女子体育大学

ソニーセミコンダクタ九州　38（18-12、20-11）23　MIE violet' IRIS

広島メイプルレッズ　32（19-9、13-13）22　筑波大学

▼準決勝

オムロン　21（12-12、9-8）20　北國銀行

［戦評］オムロンのスローオフで始まったこの試合。先取点はオムロン８番佐久川のサイドシュート。北國は立ち上がりからミスが目立つ。一方、オムロンは４番許のポストシュートなどで確実に加点した。北國は前半中盤からペースを取り戻し、GK 田代の好セーブにも助けられ、20分に 10 － 9 と逆転に成功。その後は互角の展開となり、12 － 12 の同点で前半を終了した。

　後半も一進一退の攻防が続く。ゲーム終盤の 25 分で 18 － 18 の同点。そこからオムロンが２連取するものの、北國も食い下がり、29 分に 20 － 20 と再び同点。しかし、終了間際の 7mT をオムロン８番佐久川が冷静に決め、21 － 20 で熱戦に終止符が打たれた。

ソニーセミコンダクタ九州　34（15-13、19-13）26　広島メイプルレッズ

［戦評］ソニーのスローオフで試合開始。ソニーが長野のロングで先制すると、メイプルも菅野のロング、大前のカットイン、土屋のポストで３連取。ソニーも田中、郭と連取して３－３。互角の展開となる。メイプルのミスを速攻につなげ、ソニーは７－５とリードするが、逆にミスが続き、メイプルが８－７と逆転。1点を争う攻防が続く中、最後にソニーが２点をリードして前半終了。

　後半に入ると、ソニーが一気にスパート。15 － 13 から 21 － 14 までリードを広げる。互いに得点できない時間を経て、さらに 23 － 17 から４連取で 27 － 17。10 点差として、勝負を決める。

　バランス良く得点したソニーに対し、メイプルはノーマークシュート、ラストパスのミスが多く、苦戦した。

▼決勝

オムロン　33（15-8、18-15）23　ソニーセミコンダクタ九州

［戦評］オムロンのスローオフで試合が開始された。前半 17 分まで６－６とロースコアの展開となる。オムロンは攻撃の起点となるソニー２番郭、５番田中を封じ、ディフェンスから流れをつかみ始め、15 分過ぎからは 11 番洪のロング、８番佐久川の速攻を含む５連続得点で一気に点差を広げる。一方、ソニーは３番長野、10 番出雲の退場などが響き、前半は 15 － 8 で終了する。

　後半、立ち上がり、ソニーはオムロン 11 番洪にマンツーをつけ反撃にかかるが、連続ミスでますます点差を広げられ苦しい展開となる。オムロンは後半５人の退場者を出し、15 分過ぎに CP4 人になるピンチを迎えるが、18 番東濱のシュートをはじめ要所要所で得点を重ね、33 － 23 で勝利を収めた。

　※オムロンは２年連続 10 回目の優勝

写真提供：スポーツイベント社

【表彰】

▼男子　最優秀監督　カン・ジェオン（大同特殊鋼）
　　　　最優秀選手　高木　尚（大同特殊鋼）

▼女子　最優秀監督　ファン・キョンヨン（オムロン）
　　　　最優秀選手　佐久川　ひとみ（オムロン）

第15回アジア競技大会

女子は3位 男子は6位

■チームリーダー報告

(財)日本ハンドボール協会強化本部長　蒲生 晴明

写真提供：スポーツイベント社

中東ではじめて開催される今回のアジア大会は、12月1日～15日まで、カタール・ドーハで45の国と地域・39競技424種目で競い合った。

日本代表ハンドボールチームは、前回釜山大会で途切れたメダル獲得に対して「男女ともにメダル獲得」を目標に挑んだ。その結果、女子が中国を破って銅メダルを獲得。しかし、男子は韓国と引き分けたものの第6位と振るわなかった。試合の内容等については、男女監督に報告していただく。以下に、概要について報告する。

1．開催期間

2006年12月1日～15日

ハンドボール競技：2006年12月3日～14日

2．開催国・開催都市

カタール・ドーハ

3．出場国

≪男子≫

Aグループ：バーレーン、カタール、インド、マカオ

Bグループ：クウェート、中国、香港、イラン

Cグループ：日本、UAE、ウズベキスタン、サウジアラビア

Dグループ：韓国、レバノン、シリア

≪女子≫

Aグループ：カザフスタン、中国、ウズベキスタン、インド

Bグループ：日本、韓国、タイ、チャイニーズタイペイ

4．結　果

女子について、ジャパンカップで優勝し弾みをつけて臨みたいところであったが、司令塔の田中美音子が肩を負傷した。アジア大会出発直前まで、回復具合を見ながらの判断であったが、最終的には欠場とした。しかし田中美音子を欠いてはいたが、当地に到着後約10日間のトレーニング期間が確保されていたこともあって、チームとしての戦略戦術を充分組むことができた。初戦のチャイニーズタイペイ戦にポイントであったDFが機能し勝つことができた。韓国戦の前半を除き、トレーニングしたことを発揮していた。準決勝のカザフスタン戦は、後半追い上げる場面でのテクニックミスによって追いつけなかったが、3位決定戦

写真提供：スポーツイベント社

写真提供：スポーツイベント社

で中国を撃破して「銅メダル」を獲得した。小さい身体で、組織的に良く戦ったと評価されている。

男子については、予選リーグのサウジアラビア戦がポイントであった。後半追い越す場面でのシュートミスがあって、追い越せなかった。しかし、翌日の絶対負けられないUAEに勝ってメインラウンドに進んだ。初戦のクウェートは、テクニックミスが多発し前半で離された。次の韓国戦では、追い越す場面でのシュートミスで引き分けであった。勝っていた試合であったが？この結果、準決勝進出ができずに、5～6位決定戦でシリアに負け6位となった。

5．総　評

試合の運営は、相変わらずクウェート主体のテクニカルデレゲートが掌握していた。

女子については、運営上の大きな問題はなかったが韓国に対する厳しいジャッジがあった。しかし、その中でも韓国は実力を発揮して、金メダルを獲得していた。2位のカザフスタンとは実力差ははっきりしている。レフェリーの判定に対して、試合中に対応していく姿勢は見習わねばならない。中国は、韓国人のKim男子監督を女子監督に変更していた。オリンピック出場には、韓国とカザフスタンに焦点を絞って強化していくことを再確認した。

男子については、初戦のウズベキスタンに対して、情報がないまま対戦になったが、クロアチア遠征からの好調さで、何ら問題なく勝利した。しかし、サウジアラビア戦やシリア戦などは追いつくところでの不可解なジャッジにペースを取り戻せずに、時間の経過との睨めっこであった。オリンピック予選に向けて、テクニックミスの削減と組織的な機動力向上が求められる結果となった。

今大会は、韓国に対して大変露骨なジャッジが続いた。IHFミューレマター専務理事もきていたが、あまりにも酷いため「問題である」と言っていたが、アジアの大会である以上、口は挟めないとも言っていた。

具体的な例として、準決勝の第1試合のクウェートvsイランはカタールのレフェリーが担当、当然ながらクウェートが勝ち、直後の準決勝第2試合の韓国vsカタールは、その前に勝ったクウェートが担当するという、全くアンフェアな運営であり、どんな競技においてもあり得ない運営であった。テクニカルデレゲートに後藤氏と西山氏が入って協議しているが、最終的な採決で過半数をアラブ諸国が持っているために、原案どおり通ってしまうそうである。試合前にクレームをつければ、没収試合にされる可能性があるため、試合はそのまませざるをえない。韓国は、1名の追放選手が出て、2名のレッドカードが出ている。私は、永年ハンドボールしているが、追放は国内海外を通じてはじめて目の前で見た。追放を受けるような罰則ではなかった。

決勝戦のレフェリーは、イランレフェリーで、同様にクウェートの勝ちが決まっているような試合であった。カタールは、ジャッジに対して選手や観客がクレームを付けるなど再三中断する有様で、カタール選手が2名レッドカードで退場させられた。

今大会の韓国は、酷いジャッジをされ何人もの選手がレッドカードになり、追放者まで出た。2試合出場停止が、3名出る判定であった。罰金も支払わされている。韓国オリンピック委員会は、組織委員会に提訴した模様だが、その結果は何もなかった。

北京オリンピック予選を開催するにあたって、この状況をIHF・IOCに連絡をし、韓国や中国とともにアジア東側諸国が一致団結になって、公平に試合ができるように改善を求めていく。

終わりになりましたが、国内強化合宿・スペイン遠征などご支援いただきました役員選手ならびに所属の関係の皆様方に御礼申し上げ、応援していただきました全国のハンドボールファンならびに関係の皆様に深く感謝申し上げます。

写真提供：スポーツイベント社

■日本代表の戦い

【男　子】

▼予選リーグC組

日　本　56（31－12、25－18）30　ウズベキスタン

［戦評］最初の試合は、国際大会の経験の少ない、またほとんどチームの情報のないウズベキスタン。前半スタートは、お互いファーストゲームとあって、やや硬さが見られた。スタートは豊田のサイドシュートで幕を開けた。続けてサイド猪妻もサイドからゴールなど連続4得点の快調な滑り出しであった。ディフェンスも5－1からの速攻など日本ペースで進んだ。中盤は前田の3連続ディスタンスシュートで得点差を広げた。日本は相手の単調な攻撃からの速攻で前半を29－12で折り返した。

サイドの変わった後半は、日本のノーマークシュートミスが目立ち日本の攻撃が雑になり始めると、ウズベキスタンも攻撃のリズムを取り戻しカットイン、ディスタンスなどで応戦。しかし前半で開いた差は縮まらず56－30の大差で終了。大量得点を奪っての1勝ではあったが、初戦を終えて課題の残った試合であった。

≪得点≫豊田8、前田7、東・中島6、香川・猪妻・門山5、松林・富田・永島4、宮﨑2

サウジアラビア　26（11－11、15－14）25　日　本

［戦評］サウジアラビアはエースのAL HARBIが先取点を挙げると日本は前田のステップシュートで応戦、さらに中川、門山の連続得点で3連取、すぐさまサウジアラビアも3連続得点で逆転、流れをつかもうとする。日本は前半中川の負傷退場で戦力を欠くが宮﨑、門山の奮闘で前半を11－11のタイスコアで折り返した。

後半はサウジアラビアに2連取されるが日本も豊田の速攻で食らいついていく。日本はリードする場面でノーマークシュートを外すなどリードを奪えずに進んでいく。日本の守護神、坪根も負けじとセーブを連発するが、相手に体格を利用して強引にねじ込まれてゴールを奪われるケースが多く見られた。途中出場の東がステップシュート、カットインと気を吐く、残り5分宮﨑のカットインで逆転に成功するが残り1分相手に7mスローを決められ、最後猪妻のサイドシュートがはずれタイムアップ。26－25で痛い黒星を喫した。

≪得点≫宮﨑6、東・富田・門山4、豊田3、松林・前田・中川・香川1

日　本　34（15－11、19－9）20　ＵＡＥ

［戦評］予選ラウンド最後となったUAE戦、この試合を落とすと本選ラウンド進出が危ぶまれる日本はスタートから勢いのあるゲーム展開を見せた。スタート、日本は門山の2連続ディスタンスシュートでリズムに乗ると豊田、猪妻の速攻で5－0とリードを奪う。スタートで日本の攻撃に圧倒されたUAEはAL SAFFARAの速攻で得点を挙げるとリズムを取り戻し、5－5の同点に追いつき粘りを見せる。日本は得意の3－2－1ディフェンスが機能し、早いチェックで攻撃の勢いを止め相手オフェンスにプレッシャーをかける。日本は門山が前半8点の大活躍により15－11で折り返した。

後半は相手の単調になった攻撃を、調子の上がってきた日本の守護神、坪根がナイスセーブし、素早いタイミングで速攻につなげ門山、宮﨑、途中出場の中畠の速攻などで徐々に差を広げた。途中日本は退場者を出すが、東のディスタンス、宮﨑のカットインなどの攻撃が決まり、アヘッドを感じさせない勢いが見られた。最後は34－20の大量リードで勝利を勝ち取り、予選ラウンドはサウジアラビアに次いで、2位で本選ラウンドに進むことになった。

≪得点≫門山9、宮﨑7、東5、中畠・猪妻3、豊田・富田・永島2、香川1

▼本戦ラウンド

クウェート　35（19－10、16－14）24　日　本

［戦評］ゲームはクウェート7番のサイドシュートで始まると、立て続けに5連取され、クウェートにスタートダッシュを許す。日本はリズムをつかめないまま10分にタイムアウトをとるとそこから流れが変わり猪妻、豊田の速攻などで17分に11－8まで追いつくと、すかさずクウェートもタイムアウト。その後日本はチャンスをつかむがことごとく相手GKに阻まれる。逆にクウェートはしぶとくボールをつないで展開し、確実にシュートを決めてくる。日本はじりじりと離され前半を19－10と大きく引き離されてターンする。

後半に入ってもクウェートの攻撃の勢いは止まらず、大型のポストプレーヤーにボールを集め、相手の退場を誘い、確実に得点を挙げるパターンで日本と差を広げる。日本は猪妻の速攻、サイドシュートで反撃するが前半の差がなかなか縮まらず35－24の大差で敗れた。日本は次の韓国戦で勝利しなければ、メダルの可能性を失うだけに、いよいよ正念場に追い込まれた。

≪得点≫猪妻6、前田・門山4、豊田・東3、松林・宮﨑・中畠・香川1

日　本　26（14－13、12－13）26　韓　国

［戦評］韓国（大同特殊鋼の）ペク選手の先制点に引き続き、3連取でスタートダッシュに成功した韓国。しかし、宮﨑の目の覚めるようなディスタンスシュートを皮切りに、門山、富田ら若い選手の連取で日本は前半10分、5－4とリードを奪った。そこからは一進一退のロースコアなゲーム展開に。

前半20分から韓国チームは5連続得点してリードを奪う。しかし日本も負けてはいない。豊田、門山らの得点によって逆転に成功し、14－13と1点リードで前半を終えた。

後半開始早々、初戦で負傷したキャプテン中川が3試合ぶりの得点を決める。ここで波に乗りたい日本。着実に得点を重ねて、後半13分にはこの試合最大の4点のリードを奪った。しかしここから韓国が追い上げ始め、後半20分には23－23の同点となった。そこからは1点を争う緊迫したシーソーゲームの様相に。残り4分、門山の得点で26－25と1点リードする。しかし試合終了間際、韓国7番KO選手の同点打を許し、26－26の引き分けとなった。善戦はしたものの、シュートミスなどによってリードをひろげるチャンスを逃してしまったのが悔やまれる試合となった。

≪得点≫豊田7、門山6、中川4、猪妻3、富田・宮崎2、前田・東1

日　本　25（13－10、12－14）24　バーレーン

［戦評］メインラウンド最終戦は2敗のバーレーンとの対戦であった。この試合日本は得失点差で韓国に大きく引き離されているため、準決勝に進出するためには大差で勝たなければならない厳しいゲームであった。スタート日本は豊田の速攻で先取点を挙げる。バーレーンもポストシュート、速攻ですぐに逆転するが、日本も門山、富田ら若手の活躍で3連取に成功。そこから1点差の緊迫した攻防が続く。前半23分日本は東のディスタンスシュートなどで抜け出すと高木の好セーブもあり、3点差で前半を折り返す。

後半立ち上がり、日本はミスからの速攻で2連取されるが、後半から出場の右サイド中畠の連続速攻、サイドシュートなど3連続得点で取り返す。その後両チームともチャンスとなるノーマークシュートをGKに阻まれるが、日本の6点リードで残り5分。しかし日本は連続で退場者を出すと、バーレーンに連続6ゴールを奪われ残り1分で同点に。最後の攻撃、日本はキャプテン中川のカットインシュートでリードを奪うとそのままタイムアップ。接戦を制した日本がメインラウンド3位で5－6位決定戦に望むことが決まった。

≪得点≫東5、中畠4、豊田・前田・中川3、富田・永島・猪妻2、門山1

▼5・6位決定戦

シリア　34（16－15、18－16）31　日　本

［戦評］日本の最終戦となる5位決定戦は、シリアとのゲーム。相手はパワフルな14番のポストプレーヤーと、11番のエースが中心となるチーム。日本は今大会を象徴するかのように出足が悪くシリアの19番のカットインで先制されると、連続3失点を許す。しかし日本は若きエースの門山が絶好調。得意の力強いカットイン、ディスタンスシュートなど連続得点で同点に追いつく。その後両チームとも1点差をめぐる攻防が続き前半を15－16シリアリードで終了。

後半に入ると前田、東が得点を重ねるが、シリアも14番のポストの活躍でなかなか追いつくことができない。後半残り8分、シリアのエース11番、14番の連続ポストシュートの得点でリードを広げられる。日本は東のディスタンス、今大会初出場のGK志水の7mセーブで追いすがるが、相手の攻撃を守りきることができず結局34－31の3点差でタイムアップ。日本は6位に終わった。レフェリーの笛もシリアよりだったことは否めないが、大事な勝負どころでシュートを決められなかった。日本の課題も浮き彫りになった試合だった。

≪得点≫門山8、東5、豊田・前田・富田4、中川2、松林・永島・中島・猪妻1

【女　子】

▼予選リーグ

日　本　31（14－11、17－9）20　チャイニーズタイペイ

［戦評］全日本女子チームは初戦にチャイニーズタイペイを迎えた。前半立ち上がり、金城の先制点でスタート。しかし後が続かない。対してチャイニーズタイペイは、高くアグレッシブなディフェンスと機動力を活かしたオフェンスで日本のミスを誘う。前半14分、長野の速攻や坂元の7mスロー獲得で好機を得るが、シュートミスや失点でなかなかリズムをつかむことができない。山田のシュートで4点リードとするが、それ以上のリードを奪うことができず14－11で前半を折り返した。

後半開始直後に坂元が得点するが、やはり絶対的なリズムをつかめないまま時間が過ぎていく。しかし徐々にチャイニーズタイペイの特徴をつかんだ日本は、守っては飛田の好セーブを速攻につなげ、攻めては高いチャイニーズタイペイのDFの裏のスペースを坂元、谷口のポスト勢が効果的に攻め、後半20分には7点のリードを得た。その後も日本はペースを譲らず、4連続得点、5連続得点でチャイニーズタイペイを突き放し、31－20でタイムアップを迎えた。

初戦を勝利で終えることができたが、課題も多く残る試合であった。ベルト・バウワー監督曰く、“課題があるということは進歩の余地があるということ”。

≪得点≫金城5、小野澤・谷口・長野4、小松・佐久川・坂元・早船・水野・山田・植垣2

日　本　40（22－7、18－6）13　タ　イ

［戦評］出だしは両チームとも様子を見るようなゲーム展開であったものの、前半5分以降は日本ががっちりと試合のリズムをつかみ、11連続得点で一気にリードを奪った。戦

術の変更やタイムアウトを駆使して、なんとか日本の流れを止めたいタイであったが、日本は早船や植垣を中心に着実に得点を重ねて 22 − 7 の大量リードで前半を終えた。

後半も日本チームはリズムを崩さず、後半 10 分には 30 − 8 と試合を決定づけた。その後も気を緩めることなく、次の試合につながる丁寧な試合運びをして 40 − 13 でタイムアップを迎えた。タイは選手のハンドボール歴が 3 〜 4 年という若いチームである。ハンドボールの技術は日本に及ばないものの、一生懸命にハンドボールに取り組む謙虚な姿勢は見るものにさわやかな印象を与えた。

≪得点≫早船・植垣 6、佐久川・谷口・山田 4、金城・水野・大前 3、小松・東濱・坂元 2、小野澤 1

韓　国　28（16 − 9、12 − 12）21　日　本

［戦評］立ち上がりは、金城がディスタンスシュートを決めると、すぐさま韓国左腕の CHOI がカットインで取り返すという、両チームともに譲らない展開となった。前半中盤、韓国のエンジンがかかり始め、エース MOON や左腕 WOO の得点で日本を引き離しにかかる。しかし日本は谷口や植垣の得点で粘り強く喰らいついた。前半 20 分、この時点で 10 − 7 と韓国がリード。試合終了後にベルト・バウワー監督が "前半 20 分からの 5 分が勝負の分かれ目" とふり返るように、この 5 分間で韓国チームが 6 ゴールを奪取した。対して日本チームはわずか 1 得点にとどまり、韓国チームが大きく流れを引き寄せた。

後半は両チームの得点こそ 12 − 12 の同点であるが、前半の貯金がある韓国は終始リラックスしたハンドボールを展開した。対して日本はなかなか縮まらない点差にタフな戦いを強いられた。結局、前半の点差が響く形となり、28 − 21 の 7 点差で韓国が勝利した。この試合で収穫といえるのは、前半、韓国にスパートを許してしまった時間帯の課題を、終盤までに修正できたことであろう。

≪得点≫金城 7、谷口 4、小野澤・水野・長野 2、小松・早船・大前・植垣 1

▼準決勝

カザフスタン　32（15 − 14、17 − 14）28　日　本

［戦評］決勝進出か、それとも 3 − 4 位決定戦か。本戦の結果で命運が分かれるだけに、絶対落とせない試合となった。体格面で大きく上回るカザフスタンを相手に、いかにライン際の攻防をしのぐかがこの戦いのキーポイントとなった。序盤、金城がシャープやディスタンスを決めると、続いて谷口が得点を挙げて日本に勢いをつける。しかしカザフスタンも長身の AJIDERSKAYA 選手が豪快なシュートを決めて譲らない。前半 7 分過ぎからカザフスタンが 5 連続得点を挙げて日本を突き放しにかかるが、早船が気を吐いてカザフスタンに待ったをかける。その後も、一進一退の展開が続き、17 − 14、カザフスタンの 3 点リードで前半を折り返した。

後半開始直後、カザフスタンの体格を活かした攻めに、一時は 5 点リードを許すものの、好調の早船が太ももに打撲を負いつつも連続得点を挙げ、2 点差まで詰め寄る。しかし、何度か好機を得るが、ミスで攻撃を断つ形となり、それ以上点差をつめることができない。日本は、早いボール回しにクロスを織り交ぜ、早船や金城がシャープなシュートを打ち込む形でカザフスタンを追いかける。対してカザフスタンはフリースローからのディスタンスシュートで得点を重ねる。日本にとっては、得点はするものの、カザフスタンのディスタンスシュートを止めることができず点差が縮まらないという歯がゆい展開となった。終始カザフスタンが 3 〜 4 点のリードを保ったまま、32 − 28 でカザフスタンが勝利した。

≪得点≫早船 9、金城 5、山田 4、水野・谷口 3、佐久川 2、小松・長野 1

▼ 3 位決定戦

日　本　25（16 − 13、9 − 9）22　中　国

［戦評］試合開始早々、日本は 4 連続得点で勢いをつける。中国はキャプテンの Li 選手を中心に得点を返すも日本の勢いをとめられない。谷口のフリースローからの直接ゴールや大前の技ありサイドシュートは少なからず中国に動揺を与えたようである。この日はコートプレイヤーの活躍もさることながら GK も日本の進撃に大きな役割を担った。飛田が中国エース WANG のディスタンスを止めると、7m スローでは田中が股下にさそったシュートを見事シャットアウト。この GK の活躍が日本の守りに安定感をもたらした。日本は終始 3 〜 4 点のリードを保ち、16 − 13 で前半を折り返した。

後半は日本の 3 連取でスタートした。この時点で 19 − 13 の 6 点差がついた。しかしここで日本の勢いが止まってしまう。中国の高く厚い守りに、思ったように得点をすることができない。対して中国はキャプテン Li 選手が得点を重ね、後半 20 分には 21 − 21 と試合を振り出しに戻した。このまま逆転を許してしまうのか？という嫌な雰囲気が漂ったが、途中出場の東濱が GK の逆をつく見事なディスタンスシュートを放つと、続いて金城がゴール隅ぎりぎりにきっちりとシュートを決めて再び日本に流れを呼び戻した。最後は早船がスカイプレイを決めて勝利を確実なものとした。残り 10 秒のカウントダウンの中、日本は 25 − 22 の 3 点差で歓喜のタイムアップを迎えた。これまで自らのミスでチャンスを逃してきた日本。しかしこの試合では、ここぞという時にきちんと守り、得点を挙げることができた。日本代表として成長の見られるゲームとなった。

≪得点≫金城・谷口・山田 5、早船 3、佐久川・水野・大前 2、東濱 1

■その他試合結果

【男子】

▼予選リーグＡ組

バーレーン　53（27－5、26－6）11　マカオ

カタール　48（19－2、9－10）19　インド

インド　31（17－5、14－9）14　マカオ

バーレーン　47（22－15、25－15）30　インド

カタール　52（24－5、28－7）12　マカオ

カタール　29（10－13、19－12）25　バーレーン

［順位］①カタール②バーレーン③インド④マカオ

▼予選リーグＢ組

イラン　27（15－10、12－15）25　中国

中国　30（18－10、12－13）23　香港

クウェート　21（16－12、5－2）14　イラン

イラン　36（13－10、23－8）18　香港

クウェート　33（18－9、15－14）23　中国

クウェート　41（20－14、21－9）23　香港

［順位］①クウェート②イラン③中国④香港

▼予選リーグＣ組（日本戦を除く）

サウジアラビア　33（17－11、16－18）29　ＵＡＥ

ＵＡＥ　46（24－19、22－8）27　ウズベキスタン

サウジアラビア　51（24－11、27－12）23　ウズベキスタン

［順位］①サウジアラビア②日本③ＵＡＥ④ウズベキスタン

▼予選リーグＤ組

韓国　38（18－17、20－19）36　シリア

シリア　37（18－13、19－15）28　レバノン

韓国　45（23－11、22－18）29　レバノン

［順位］①韓国②シリア③レバノン

▼本戦ラウンドＡ組（日本戦を除く）

韓国　43（21－15、22－14）29　バーレーン

クウェート　32（20－10、12－18）28　バーレーン

クウェート　32（15－10、17－16）26　韓国

［順位］①クウェート②韓国③日本④バーレーン

▼本戦ラウンドＢ組

カタール　27（12－12、15－12）24　イラン

シリア　34（15－11、19－14）25　サウジアラビア

カタール　29（17－7、14－14）21　シリア

イラン　28（15－8、13－11）19　サウジアラビア

カタール　10（0－0、0－0）0　サウジアラビア

イラン　30（13－8、17－17）25　シリア

［順位］①カタール②イラン③シリア④サウジアラビア

▼順位決定ラウンド

ＵＡＥ　42（27－10、15－18）28　インド

レバノン　31（14－13、17－15）28　中国

ウズベキスタン　46（24－15、22－20）35　マカオ

▼ 13 位決定戦

香港　35（19－18、16－14）32　ウズベキスタン

▼ 11 位決定戦

中国　34（18－14、16－19）33　インド

▼ 9 位決定戦

レバノン　31（12－12、19－17）29　ＵＡＥ

▼ 7 位決定戦

バーレーン　32（18－18、14－13）31　サウジアラビア

▼準決勝

クウェート　31（16－10、15－12）22　イラン

カタール　40（19－13、21－15）28　韓国

▼ 3 位決定戦

イラン　31（14－11、17－16）27　韓国

▼決勝戦

クウェート　27（13－11、14－13）24　カタール

［最終順位］①クウェート②カタール③イラン④韓国⑤シリア⑥日本⑦バーレーン⑧サウジアラビア⑨レバノン⑩ＵＡＥ⑪中国⑫インド⑬香港⑭ウズベキスタン⑮マカオ

【女子】

▼予選リーグＡ組

カザフスタン　23（13－6、10－6）12　ウズベキスタン

中国　56（29－11、27－8）19　インド

カザフスタン　38（18－12、20－5）17　インド

中国　46（24－9、22－8）17　ウズベキスタン

カザフスタン　32（15－9、17－16）25　中国

ウズベキスタン　29（14－9、15－15）24　インド

［順位］①カザフスタン②中国③ウズベキスタン④インド

▼予選リーグＢ組（日本戦を除く）

韓国　45（22－7、23－7）14　タイ

韓国　44（23－8、21－9）17　チャイニーズタイペイ

チャイニーズタイペイ　30（17－12、13－12）24　タイ

［順位］①韓国②日本③チャイニーズタイペイ④タイ

▼準決勝（日本戦を除く）

韓国　34（18－14、16－18）32　中国

▼ 7 位決定戦

タイ　43（25－9、18－11）20　インド

▼ 5 位決定戦

チャイニーズタイペイ　26（16－11、10－14）25　ウズベキスタン

▼決勝戦

韓国　29（14－14、15－8）22　カザフスタン

［最終順位］①韓国②カザフスタン③日本④中国⑤チャイニーズタイペイ⑥ウズベキスタン⑦タイ⑧インド

平成18年度高松宮記念杯 男子49回・女子42回全日本学生選手権大会

男子は日本体育大学、女子は筑波大学が優勝

総評

東海学生ハンドボール連盟理事長・大会副委員長　**飼沼 敏雄**

男子第49回・女子第42回 平成18年度全日本学生選手権大会（平成18年11月16日～20日）が協会設立60周年をむかえた愛知にて開催されました。本大会が成功裏に終了できましたのも、全日本学生ハンドボール連盟、愛知県ハンドボール協会はじめ、運営委員等関係者の皆様のご協力によるものと感謝しております。

さて、本大会を主管した東海学生ハンドボール連盟は、選手のご活躍を願い、記憶に残る大会に仕上げるべく開会式をはじめ各方面の手配・準備を進めてまいりました。開会式は、名古屋市公会堂大ホールにて、前年度優勝校男子筑波大学、女子武庫川女子大学による優勝旗返還、国歌演奏などが盛大にとり行われました。さらに、本年ポーランドで開催された世界学生選手権大会に出場し、男子5位、女子4位の好成績を遂げた代表選手および役員の紹介とスピーチが行なわれました。また、全日本男子監督を退任された松井幸嗣氏（日本体育大学監督）の表彰もあわせて行われました。

続いて、地元大同特殊鋼コーチの趙範衍氏、トヨタ車体監督の酒巻清治氏を招いて、「アジアのハンドボールがヨーロッパに通用するか！」というテーマでパネルディスカッションが行われました。それぞれ代表選手として活躍し、現在トップチームを指導しているお二人のコメントは豊富な経験に培われたものだけに非常に重みがあり、興味深く示唆に富むものであったと思います。選手だけでなく、多くの指導者からも好評をいただきました。

全国各地区から男子32チーム、女子24チームによるトーナメントの戦いは、平日にもかかわらず、連日多数の来場者があり、その影響もあってか学生らしい好ゲームが続きました。注目の男子2回戦では、地元東海勢の雄中部大学が前年度覇者筑波大学に挑みましたが、1点差で惜しくも敗れました。これで、地元東海勢は男女ともすべて敗退し、やや残念な結果となりました。

ベスト8に残ったのは男子が関東6チーム、関西・九州各1チーム、女子が関東4チーム、関西3チーム、九州1チームとなりました。男子は昨年に引き続き関東勢が、女子は関東勢と関西勢の充実ぶりがクローズアップされました。

準々決勝～準決勝は土曜・日曜ということもあり、地元はもとより県外からも多数の中・高校生が来場し、館内超満員で緊迫したゲームが繰り広げられました。決勝戦は、GK宇野を中心に粘り強いディフェンスとバランスのとれた攻撃力を誇る早稲田大学とGK東の堅守から得意の速攻、さらに東長濱・棚原のルーキーコンビの活躍で駒を進めた日本体育大学の戦いとなりました。両チームとも最後まで譲らず決勝戦に相応しいゲームとなりましたが、日本体育大学が延長戦の末35対33で、3年ぶり17回目の優勝を飾りました。

女子は、要所を元韓国代表・張や五月女、藤井ら4年生の活躍で駒を進めた東京女子体育大学と春・秋のリーグを制した筑波大学の関東勢同士の対戦となりました。学生界屈指のGK下地を軸に、主将でエースの樋口、2年生ゲームメイカー石立らの個人技とバランスの良い組織力で筑波大学が接戦を抜け出し、2年ぶり9回目の優勝を飾りました。

最後になりましたが、今大会に参加した選手・役員の皆さんの今後のご活躍をお祈りすると共に、日本協会をはじめ、各関係者に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

優勝校の喜びの声

【男子優勝校】優勝して思うこと

日本体育大学男子ハンドボール部主将　千々波 英明

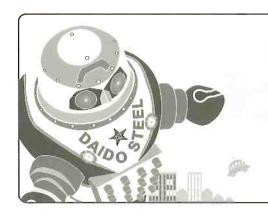
自分は何のためにハンドボールをやっているのか、チームの皆は何のためにハンドボールをやっているのか。4年間ハンドボールをやってきて、そして優勝して分かった気がします。

優勝するまでは、上手くなりたい、高校で果たせなかった日本一になりたいと思っていました。だからこそ苦しい練習に耐えることも出来ましたし、もっと遊びたい、練習を休みたいという欲求も我慢できました。その我慢は、チーム全体にもっともっと上手くなってやろうという気持ちを芽生えさせました。そしてこのチームの主将として、優勝した今となって分かった気がします。

このチームの一人ひとりは、個人の活躍や自分の名誉のためにハンドボールをやってはいません。チームの勝利のために、仲間のためにプレーをしています。

そして何のためにハンドボールをやっているか。こうした仲間と優勝した喜びを味わうため、先生と共に喜べるその時のために、自分たちはやっていたのだと思います。仲間や先生、練習や日々の生活を思い返すことで、喜びは無限に大きくなり、自然と涙も出てきます。

そんな今だからこそ、このチームにも4年間にも満足できたと思います。そして、このチームの主将を務められたことを誇りに思います。

この優勝は、たくさんの人達の支え、協力があったからこそのものです。この場を借りて、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

優勝校の喜びの声

【女子優勝校】自分とチームメイトを信じて

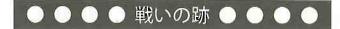
筑波大学女子ハンドボール部主将　樋口 真央

昨年のインカレは準決勝敗退に終わり、あの日から1年間、この名古屋インカレのために日々努力してきました。無冠で終わってしまった1年間から学んだこと、先輩達から受け継いだ思いを胸に、必死に練習しました。「自分を変えることがチームを変えることになる」と一人ずつが妥協なく頑張ってきました。

1戦目までは相手チームの十分な情報はなく、自分たちの試合をする事を頭におき戦いました。まずまずの試合ができたと思います。準決勝の相手はこれまでに何度も対戦している茨城大学。まずはこの試合で勝って決勝へ進まないとリベンジへの挑戦権が得られません。お互いの手の内を分かり合っているだけに気の抜けない試合でしたが、決勝につながる試合ができました。

そして迎えた決勝戦。相手は東京女子体育大学。試合前に、「今まで頑張ってきた自分と、このチームメイトを信じること。信じて目の前の1本1本に集中すること。そうすれば60分経って笑ってるのは私らだから」と全員で気持ちを入れ臨みました。前半の立ち上がりはこれ以上ない出だしでした。攻守のリズムがかみ合い、丁寧に試合を運ぶことができ、前半は4点リードで折り返しました。しかし、後半早い時間に追いつかれ苦しい展開が続きました。ミスからの速攻で簡単に得点されて、残り10分で3点のリードを許し、劣勢の時間が続きました。相手チームの勢いや自分たちの攻撃のリズムが崩れてしまっていることを考えるとその3点は簡単にひっくり返せるものではなかったかもしれませんが、その後のタイムアウトで「やるべきことをやるだけ。大丈夫。」と確認し合い、着実に1点ずつ返して、GKを軸に必死で守り、残り1分を残すところで逆転しました。何とかその1点を守りきり、目標であった金メダルを獲ることができました。頑張った分ちゃんと結果はついてくるということをこのメンバーで証明でき、心から嬉しく思います。

写真提供：スポーツイベント社

これまで指導して下さった先生方、また様々なケアをして下さったトレーナーさん、そして近くから、遠くから私たちを支えてくださった皆さんに本当に感謝しています。

【男子戦評】

▼準決勝

日本体大　28（15 － 14、13 － 12）26　日本大学

日本大の高い３－３ディフェンスに対し日体大はポスト生川を中心に展開し得点を重ねる。日本大も負けじと、安藤のディスタンスシュート、村上のカットインで追い上げるが、日体大ＧＫ東の堅守を起点に速攻でリードを広げる。チームタイムアウトをきっかけに落ち着きを取り戻した日本大が反撃を開始し、１点差で折り返し。

後半に入ると橋本・村田のサイドシュートにより、日本大がリードを奪う。その後、両者ともに得点を重ね、１点差を争う緊迫したゲームが展開される。後半28分、日本大に痛恨の退場者！　そのチャンスに東長浜・棚原のルーキーコンビが連続得点に成功し、日体大が辛くも勝利を手に入れた。出色の好試合。

早稲田大　28（15 － 11、13 － 12）23　大阪体大

前半、早稲田ディフェンス陣の奮闘による速攻が功を奏し得点を重ねていく。対する大体大も高智の突破力を生かした攻撃で早稲田ディフェンスを攻め立てる。前半21分、大体大は続けざまに２名の退場者を出し、前半最大のピンチを迎える。この好機を逃さず、早稲田は岸川・松信・野村等が連続得点をものにし、４点のリードを奪い前半終了。しかし終了間際、早稲田も退場者を出し、波乱含みの後半戦へ。

早稲田は退場者を抱えて迎えた後半であったが、難なくこのピンチを乗り切った。その後、早稲田は水野・野村・岸川が中心になって４連続得点に成功。大体大も新・堀上らの速攻で追い上げを試みるが、精彩を欠き８点のリードを許してしまう。終盤、奥井・西山等が４連続得点をあげ、軋みながらも大体大の歯車が回りだす。しかし時すでに遅く、早稲田が決勝への切符を手に入れた。

▼決勝戦

日本体大　35（16 － 16、12 － 12）33　早稲田大
（2 － 2 延長 5 － 3）

前半スタート、日体大はポストを生かしたセットのオフェンスから得点をし、対する早稲田は相手のミスやパスカットから速攻で得点を重ねる、一進一退の攻防。試合が動き出したのは、ラスト10分。早稲田の退場から、日体大が３点差とする。しかし早稲田がディフェンスシステムを６・０に変え、速攻から得点を重ね16 － 16で折り返す。

後半スタート、早稲田はスカイプレーなどでリズムをつかむ。日体大もお家芸の速攻で応戦する。中盤、早稲田のシュートミスから、日体大得意の速攻から４点リードとする。しかし、日体大村山の負傷退場時に、早稲田は粘りのディフェンスから、同点に追いつき、一進一退の攻防で延長戦に突入する。

延長前半スタート。両者一歩も退かず同点のまま後半へ。最後は終始攻め続けた日体大が、３年ぶり17回目の優勝を決めた。

【女子戦評】

▼準決勝

東女体大　26（10 － 13、16 － 9）22　大阪教大

両チームとも硬さが目立つ立ち上がり。東女体が藤井のディスタンスシュートで先制するが、大教大は植垣・江口らの速攻を中心に点差を広げた。東女体も藤井・和嶋の鋭いシュートで追い上げを図るも､大教大の３点リードで前半を終了。

後半、退場者を背負い苦しくなった東女体であったが、加藤・張らが５連続得点の活躍を見せ、逆転に成功。さらに東女体は藤井のディスタンスシュートで点差を広げた。しかし、大教大も粘りを見せ、植垣・大城らの得点で追い上げを図ったが、及ばなかった。

筑波大学　37（19 － 6、18 － 7）13　茨城大学

硬いディフェンスの筑波大が速攻でリズムをつかみリードを広げる。茨城大も大河内のカットイン、須賀のポストプレー等で巻き返しに出るが、筑波大GK下地の攻守に阻まれペースをつかめない。樋口・伊藤の速攻等で筑波大がさらに点差を広げ、19 －６で前半を終了した。

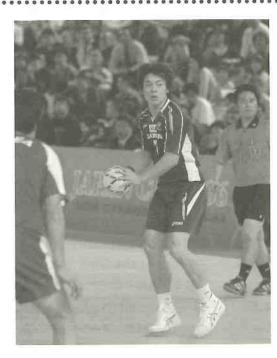
後半、筑波大学は樋口を中心とした展開力あふれるプレーで得点を重ねる。粘る茨城大も西坂・高橋等を中心に筑波ディフェンスの突破に成功するが、筑波大もすぐに堅牢さを取り戻し反撃を封じた。その後も筑波大は伊藤・高橋等の速攻を軸にリードを広げ、貫禄を見せ付けた。

▼決勝戦

筑波大学　24（14 － 10、10 － 13）23　東女体大

スタート筑波大の多彩なセットオフェンスのバリエーションから４－０リードし、東女体はタイムアウト後筑波大のミスから流れを掴み速攻で追い上げる。筑波大はゴールキーパーを中心としたしっかりした試合運びで、ミドルシュートなどで攻撃の手を緩めず。東女体は張選手の個人技で追い上げるも筑波大リードで前半終了。

後半10分ついに東女体が筑波大に追いつき逆転すると１点差を争うシーソーゲーム。筑波大樋口負傷退場の間に東女体は２点をリードするも、東女体退場者の際に石館のカットインから再び同点に戻す。その後、ゴールキーパーの好セーブで１点差を守り、筑波大学の２年ぶり９回目の優勝。

JAPAN CUP HANDBALL 2006

2点とも　写真提供：スポーツイベント社

JAPAN CUP HANDBALL 2006 をふりかえって

大阪ハンドボール協会理事長　中村 博幸

まずは、全日本男・女のアベック優勝おめでとうございます。選手・スタッフの皆様もホッと胸をなでおろしておられることと思います。最強の韓国・中国ではないにしても、全日本の肩書きを背負っての国内での国際大会は、やはり責任感をヒシヒシと感じた戦いだったと思います。

以前、兵庫県で開催された、オリンピック予選でみた全日本男子チームよりも心技体ともワンランクアップ成長した姿を見ることができました。試合運びもスピードアップし、以前は個人技でがむしゃらにプレイしていた印象が強くあったのですが、今回はオフェンス面でもディフェンス面でもコンビプレー、組織プレーが随所にみられ、成長の跡が顕著に見えました。今年のオリンピック予選に大きな期待が持てる印象を持ちました。

女子の全日本チームは田中、坂元、佐久川らのベテラン勢の活躍が目立ちましたが、選手層の薄さを痛感しました。北京オリンピック予選に向けて若手の台頭が望まれます。

２日目の午前中に行われた、ちびっ子ハンドボール教室では、試合前にもかかわらず、精力的に子ども達を教えていただき、又いい表情での指導は、非常に好感が持てました。大阪の子ども達にとって、一生の思い出となる時間だったに違いありません。

大会全般の内容は、韓国、中国チームのマナーの悪さが目立ちました。女子の JHL 選抜 VS 韓国戦では審判の判定に対する不満で、タイムアウト中に観客席から韓国スタッフが出てきて審判の頭を平手で殴り、足で蹴ってくるという行為がありました。他の韓国スタッフが出てきておさめ、大事には

男子		日本	JHL選抜	韓国	中国	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	日本（JPN）		32○23	37○19	38○22	3	3－0－0	107	64	43	6
2位	JHL選抜（JHL）	23●32		30○27	32○27	3	2－0－1	85	86	-1	4
3位	韓国（KOR）	19●37	27●30		24○21	3	1－0－2	70	88	-18	2
4位	中国（CHN）	22●38	27●32	21●24		3	0－0－3	70	94	-24	0

女子		日本	中国	JHL選抜	韓国	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	日本（JPN）		30△30	33○19	20○17	3	2－1－0	83	66	17	5
2位	中国（CHN）	30△30		29○21	33○27	3	2－1－0	92	78	14	5
3位	JHL選抜（JHL）	19●33	21●29		28○21	3	1－0－2	68	83	-15	2
4位	韓国（KOR）	17●20	27●33	21●28		3	0－0－3	65	81	-16	0

至りませんでしたが、またその試合で韓国の監督が、同じく判定に不満でハーフタイムにベンチから自ら退場し監督交代というハプニングも起きました。親善試合ということで、そのまま交代で続行されましたが、後味の悪い試合になりました。

最終戦の全日本VS中国戦では、中国の粗暴行為があり、失格・退場者が続出し、スコアシート1枚では書ききれない事態となりました。国際大会の運営の難しさを改めて痛感しました。しかし全日本、JHL選抜の日本選手の挨拶や態度に、大阪のスタッフに対する感謝の気持ちが伝わってきたのが救いでした。以前は記事に辛口コメントを書きましたが、前述のように、日本選手の心・技・体の成長が今後に期待を残した大会でした。

最後になりましたが、急な申し出で、十分な運営ができませんでしたが、この大会を開催するにあたり後援をいただきました大阪市をはじめ関係各位に対し、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

戦評

【男子】

日　本　32（16－12、16－11）23　JHL選抜

［戦評］JHL選抜の高いディフェンスで日本は攻めあぐむ。6分過ぎから日本の攻撃がリズムに乗り、宮﨑からのクロスパス、及び相手のミスからの速攻で13－5と突き放したかに見えたが、JHL選抜2末松の2本連続、村上（秀）の3本連続で13－10と3点差に。ここで日本がチームタイムアウトを取る。残り7分からは、一進一退のゲームで前半16－12で終了。

後半早々JHL選抜の7mTを獲得し、追い上げと期待したが、やはり日本は速攻3、ポスト3、ミドル3、カットインなどで着々と加点し、後半15分で26－16と10点差に広げる。しかし、日本は15分から20分までの5分間に退場3名（同時には2名）、JHL選抜福田、村上（秀）で追い上げたが点差が縮まらなかった。

《得点》　豊田5、宮﨑・中川4、松林・前田・永島・香川・富田3、中畠2、東・門山1

日　本　37（22－11、15－8）19　韓　国

［戦評］前半立ち上がり両チームとも、ミドル・ロングシュートの打ち合いとなった。5－1DFで集中力の高い日本が7分過ぎまで4－2とリードし、試合の主導権を掴む。その後、宮﨑、中川のミドル、ロングを警戒する韓国DFの裏のスペースをつき富田の確率の高いポストシュートで得点を重ねた。前半中盤、コートを広く使った展開から絶妙なポストパス、フェイントからカットインで得点するが韓国もエースのキム・ジフンの活躍で応戦。しかし、ラスト10分を過ぎると、日本は固いDFから速攻、豊田、中川、宮﨑らの活躍で一気に韓国を引き離した。

後半に入り、東、香川、中畠らの若いメンバーも投入し順調に得点を積み重ねた日本。前半の大量リードを守りきり

37 － 19 で勝利を収めた。

《得点》 富田 7、豊田・宮﨑・中川・香川 4、松林・中畠 3、前田・永島 2、東・武田・猪妻・門山 1

日 本 38（17 － 10、21 － 12）22 中 国

［戦評］立ち上がり日本は高い中国ディフェンスの裏を巧みにつき、ポストを使った攻撃を繰り出し、中国ディフェンスのイエローカードを誘った。一方、中国は高い身長から繰り出すロングシュートを狙いながら、ポスト攻撃を織り交ぜ、10 分まで日本 4 － 3 中国とした。その後日本はディフェンスシフトをうまく変えながら、中国の攻撃を防ぎ、4 番前田が要所で得点をあげ、20 分には 12 － 6 とした。日本はそのまま流れを掴み試合を進め、17 － 10 で前半を終えた。

後半に入っても日本は試合の主導権を握り、10 分で 24 － 13 とした。その後中国はラフなディフェンスで退場者を出し、CP が 3 人になる場面も見られた。また中国 GK が攻撃に参加する珍しい展開もあった。日本は GK 坪根のファインセーブで中国の得点を阻止するとともに得点を重ねた。後半 15 分以降メンバーを変える余裕も見せ、38 － 22 で中国に快勝し、ジャパンカップ 2006 の優勝を飾った。

《得点》 前田 8、猪妻 5、中川・中畠・門山 4、東 3、豊田・富田・宮﨑・香川 2、松林・武田 1

【女子】

日 本 33（18 － 9、15 － 10）19 JHL 選抜

［戦評］前半日本は開始 5 分間に GK16 田中（麻）選手の確実なキーピングからハーフ速攻などで 3 点を連取するも、10 分まで 5 点とミスで加点できない。しかし、JHL 選抜も GK 田中（麻）にことごとく阻まれ 9 分にやっと 1 点を伊藤が得点、その後日本は 5 点を連取し一気に JHL 選抜を引き離しダブルスコア 18 － 9 で前半は終了。

後半は、淡々とした両チームの攻防が続くが、日本 GK 飛田が 15 分間 JHL 選抜チームのシュートを好守し 2 点しか取られなかった。その間に日本は次々に加点し、試合の大勢を決した。

《得点》 田中（美）7、小野澤・佐久川・坂元・長野 4、東濱・大前・菅野・伊藤 2、水野・寺田 1

日 本 20（9 － 11、11 － 6）17 韓 国

［戦評］身長で大幅に日本を上回る韓国は、ロングシュート、カットインを試みても得点に至らず、日本もオフェンスミスが続くも GK 勝田のセーブに助けられ、長野、東濱のロングなどで 10 分まで 5 － 2 とリードする。前半中盤、韓国はステップシュート、ランニングシュートで点差を縮める。日本田中（美）のステップシュート、ミドルシュートで得点を重ねる。しかし、前半終盤韓国はオフェンス、ディフェンスともにリズムに乗りだし、逆転し 2 点差をつけ前半を終了した。

後半早々日本はカットインで同点に追いつく。その後韓国は果敢に攻撃するが得点にはつながらず、GK 勝田の好セーブが光った。中盤は両チームとも攻めあぐみ、得点につながらない均衡した状態が続いた。ラスト 10 分を切り韓国 DF の退場をきっかけに日本は速攻などで 4 連取した。ラスト 5 分再び同点となったがパスカットなどの速攻で再び連取し、最後は 3 点差をつけ、粘る韓国を退けた。

《得点》 田中（美）8、佐久川 4、水野 3、東濱・小野澤・坂元・大前・長野 1

日 本 30（14 － 14、16 － 16）30 中 国

［戦評］立ち上がり身長差で上回る中国はロングシュートで、日本は果敢に攻めポストを有効に利用し応戦する。前半 10 分までは互角の勝負。その後、中国は、ロングシュートに対応する日本に対し、ポスト、サイドを使う攻撃に切り替えた。一方、日本は巧みなパス回しからサイドシュート、カットインなどで得点をあげ、一進一退の緊迫した試合展開となり 14 － 14 で前半を終えた。

後半、両チームは疲労が増すなか、必死の攻防が続き、後半 9 分 20 － 20 の同点。後半中盤から、両チーム共に激しいディフェンスが続き、退場者が多く出たものの、互いに譲ることなく試合を進めた。最終的には 30 － 30 の同点で終わったものの、前半 GK 飛田、後半は GK 勝田の好セーブが印象に残り、CP では田中（美）の健闘が光った。

《得点》 田中（美）11、佐久川 5、東濱・坂元・長野 3、小野澤・水野 2

～北京は大丈夫か～

企画・広報委員
早川　文司

2007年が明けた。今年のハンドボール界は、大げさに言えば「生死を賭けた」戦いが待ち受けていると言っても過言ではあるまい。

悲願のオリンピック出場への大一番、アジア予選がある。ご存じのように男子は88年のソウル大会、女子はさらにさかのぼって76年のモントリオール大会いらい出場権をつかんでいない。

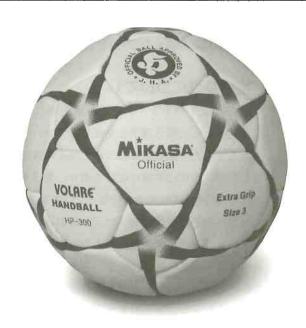
昨年暮れ、カタールのドーハで開かれたアジア大会。日本は北京へつなぐ重要な大会と位置づけて臨んだ。しかし、男子は2大会連続でメダルを逃し、しかも、過去７大会で最低の6位に落ち込んでしまった。確かにまたも「中東の笛」がささやかれはしたが、いまさらながら、そんなことを言っても始まらない。

アジア大会の現実を率直に受け止め、総括し、課題の解消に一刻も早く取り組むしかあるまい。問題は北京へどうつなぐか—この一点しかあるまい。9月に愛知県豊田市で行われるアジア予選で1位を勝ち取ることが絶対条件。ここを逃しても世界予選があるなんて甘い考えては、到底、北京への道はまたも閉ざされてしまうだろう。

メンバー編成はこのままでいいのか。合宿の環境は十分整っているか。練習メニューは…とにかく、北京へ球界挙げて出来る限りの積極的なバックアップをすることが求められる。

昨夏の男子アジアジュニア選手権をみても、中東勢のヨーロッパ志向がはっきりした。6連覇を狙った韓国がクウェート、カタール、イランに屈して、予想もしていなかったメダルなしに終わったことを眺めても、中東勢のいっそうの強化がうかがえる。

これらの国を倒さなければ、北京はない。でも、何かアクションを起こさないわけにはいかないのだ。ホームで戦える利点もある。すべてをここに結集して、5大会ぶりの歓喜の雄叫びを挙げたいものだ。

一方の女子は前回逃したメダルを取り戻した。中国をたたいての３位は評価されてよかろう。しかも、大黒柱の田中（ソニーセミコンダクタ九州）を欠いての大健闘。その中でも中国を倒した自信は何事にも替え難いものだろう。ドーハを舞台に北京への道を踏み出したとはいえ、まだ多くの課題は抱えていることも事実。しかも韓国という高い壁が立ちはだかっている。女子は敵地・カザフスタンでの予選。いっそうのレベルアップが欠かせない。悲願成就には球界一丸しかない。

NTSの今後の運営について

NTS運営委員　関　健三

NTS（ナショナル・トレーニング・システム）は文部科学省が策定しました「スポーツ振興基本計画」の中にあります「一貫指導システム構築」「競技者育成プログラム策定」に従いまして、若手選手層から優秀な選手を発掘し、統一された指導方法による一貫指導を実施しながら、指導者のレベル向上、情報の共有、普及を目的に発足して7年目を迎えることができました。NTS活動にご協力くださいました皆様に感謝を申し上げます。

今回はNTSをよりご理解いただくため、ブロックトレーニングにおいて実施したアンケートに対する回答を中心に報告いたします。

《予算について》

これまでのNTS事業の予算は日本スポーツ振興センター（toto）などからの補助を受けながらNTS事業を展開してきました。2007年度NTS予算は本年度と同額の1,600万円を申請し、より充実した内容にするべく努力していきます。その内訳は約800万円をブロックトレーニング経費に500万円をセンタートレーニングに充てており、そのほとんどが交通費と宿泊費に使用されているのが現状です。

《運営について》

現状のブロックトレーニングの運営はNTSブロック技術委員長を中心に各ブロックにお願いしています。技術委員長を補佐し運営を担当する運営委員、トレーニングを実行するための調整役のコーディネーター、トレーニングを指揮するインストラクターがいます。ブロックトレーニングに参加する選手は900名、指導者300名、その他運営関係者を加えると約1,500名の大事業となっています。しかしながら、実際に運営に携わっているのは開催地の関係者であり、開催地の関係者にお世話にならなければ運営できないのが現状です。

文部科学省は一貫指導システムを都道府県レベルで実行しようとしております。NTSとしても各都道府県での「一貫指導システム構築」「競技者育成プログラム策定」を進めていただきたくお願いいたします。

《トレーニング内容について》

NTSブロックトレーニングでのトレーニング内容については、アジア大会やアジアジュニア選手権大会などの反省をもとにトレーニング内容の検討やシミュレーションをNTS委員とナショナル強化スタッフチームを中心に行ないます。NTSのトレーニング内容は一貫指導を念頭にしてチーム戦術を中心に指導するのではなく課題を抽出し、それを克服するための基本トレーニング中心にプログラムを作成しています。

NTSは情報の共有についても目的にしていますので、どんな内容でどんな方法でトレーニングをしているか、指導者の方々に見に来ていただければ参考になると思います。自分のチームが参考にするほど高いレベルではないと思っている選手及び指導者も一度見学に来てください。たとえば、小学生のトレーニングなどはどんどん新しいトレーニングを取り入れていますので、中学生の指導者が見学しても参考になると考えます。

《参加人数について》

NTSブロックトレーニングの参加枠は各都道府県・各セクション3名を基本的参加人数としています。より多く選手を参加させたいと考えていますが経費の関係上難しいのが現状です。一部のブロックでは規定人数外で自由参加を認めておりますのでブロック開催地および各都道府県のNTS委員にご相談ください。

《推薦基準について》

NTSセンタートレーニング推薦基準については、将来日本代表として戦う選手を発掘し育てていくことを目的に作成しました。推薦基準について多くの方から質問がありましたが、基準は明確になっており、選手選考もブロック技術委員長を中心に選考を行なっています。センタートレーニングへの推薦者数は各ブロックにおける過去の全国大会などの成績をポイント化して人数を振り分けており来年度も本年度と同数の推薦枠です。各セクション50名を推薦していただき、その中から選考委員会において最終30名がセンタートレーニングへ召集されます。その後、センタートレーニングにおいて強化委員会が中心になって年齢別強化指定選手を数名選考いたします。〈次ページ表参照〉

※センタートレーニング推薦基準※

第1選考基準　・日本国籍を有する選手（今後日本国籍を取得する予定者）
　　　　　　　・日本ハンドボール協会から推薦を受けている選手
第2選考基準　・形態的特長基準を上回る選手
　　　　　　　（身長・高校男子185cm、高校女子170cm、中学男子180cm、中学女子167cm）
　　　　　　　・運動能力的特長基準を2項目以上上回る選手
　　　　　　　（30m走・立ち5段跳び・長座遠投・背筋力・握力でそれぞれに基準を設定。
　　　　　　　2007年度は運動能力項目を検討中）
第3選考基準　・技術戦術的特長を有する選手
　　　　　　　・その他の理由で推薦に値する選手

☆ブロック参加選手・センター推薦選手数一覧表★

	ブロックトレーニング			センタートレーニング			
		参加選手		推薦選手		参加選手	
地区	都道府県数	セクション別	合計	セクション別	合計	セクション別	合計
北海道	1	5	30	1	4		
東北	6	18	108	3	12		
関東	8	24	144	11	44		
北信越	5	15	90	5	20		
東海	4	12	72	6	24		
近畿	6	18	108	8	32		
中国	5	15	90	3	12		
四国	4	12	72	2	8		
九州・沖縄	8	24	144	11	44		
計	47	143	858	50	200	30	120

《DVD・教本について》

2006年度のDVD・教本は作成中で近日販売を予定しています。DVDの内容や価格等については次号でお知らせします。

《将来の運営について》

将来のNTS構想はブロックトレーニングの益々の充実と都道府県単位での「一貫指導システム構築」「競技者育成プログラム策定」です。ブロックトレーニングの充実のためには指導者のブロックトレーニングへの積極的参加が望まれます。現在は片道の交通費と宿泊費の補助を行なっていますが、研修には自己負担が基本と考えます。サッカーのトレセンのように参加料を払って参加する。NTSがトレセンのようになるにはトレーニング内容を含めブロックトレーニングの充実が必要になります。そのためにはNTS関係者だけではなく多くの方々の協力が必要となります。また、将来都道府県単位で「一貫指導システム構築」「競技者育成プログラム策定」を行なっていくことを考えるとインストラクターも育てていかなければなりません。日本ハンドボール協会及びNTSからインストラクターを派遣するのではなく、都道府県でインストラクターの育成し指導することを考える時期にきていると思います。

今後ともNTS事業の充実と発展のため、ますますのご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。

第４回日本車椅子ハンドボール競技大会

宮城フェニックスが４連覇を飾る

日本車椅子ハンドボール連盟会長　小西 博喜

第４回日本車椅子ハンドボール競技大会は、11月17日（金）～19日（日）の日程で「のじぎく兵庫国体」の開催地にふさわしい世界文化遺産の姫路市において開催されましたので、大会の様子を報告いたします。

【戦評】

▼準決勝

宮城フェニックス　22（12―7、10―6）13　近福大社会福祉
（宮城）　（兵庫）

近福大社会福祉は、終始ねばり強い攻めで宮城フェニックスに立ち向かった。守りから攻めへの切り替えを早くして、効率の良い攻撃パターンで対応したが、宮城のディフェンスの位置取りがうまく、つけ入るスキを与えなかった。宮城は相手プレーヤーの動きをよく見ており、パスワークも落ち着いた攻撃で確率の高いシュートで逃げ切ったのはさすがである。

近畿福祉大　26（10―4、16―10）14　近福大介護福祉
（兵庫）　（兵庫）

前半立ち上がりから近畿福祉大の攻撃は近福大介護福祉の出先を阻む勢いで先手々々の速攻を止めにかかった。近福大介護も若松がロングシュートを随所に決めて近畿福祉大を追い上げた。しかし、近畿福祉大のディフェンスがよく、点差は広がる流れで前半を終了。後半、立ち上がりは両チームの動きはよく、互角の試合内容。ゲーム経験の多い近畿福祉大が肝心のところでポイントをあげ、安定した試合巧者ぶりを発揮した好ゲームであった。

▼３位決定戦

近福大介護福祉　19（12―9、7―9）18　近福大社会福祉

近畿福祉大同士の対戦カードとなった。お互いの手の内を熟知している両チームであったが、社会福祉にミスが目立ち、痛い失点を重ねた。後半、介護福祉が若松のロングシュートにボールを集め、また若松のシュート位置もよく、強肩を生かしたシュートで得点を挙げる。一方、社会福祉も岩村のポストプレーからサイド攻撃に展開し、終盤を盛り上げたが１点差で万事休した。

▼決勝

宮城フェニックス　22（12―12、10―9）21　近畿福祉大

両者、立ち上がりからお互いに堅いディフェンス力でシュートを阻止した。３分経過後、宮城の先制点から試合は動き始め、しばらく一進一退の流れが続いた。速攻やディフェンスともに好プレーが続出し、リードを譲らない激しいゲームとなった。後半、近畿福祉大 GK 石原の好守でリードを奪いやや波に乗りかけたかに見えたが、地力に勝る宮城が追いつき、最後はペナルティースローで１点をリードし、ゲーム終了。４連覇を達成した。

互いに総力を尽くして力を出し切った甲乙つけ難い好ゲームであった。

平成18年度第9回ハンドボール研究集会報告

学校体育検討専門委員会委員長　佐藤　靖（秋田大学）

標記、第9回ハンドボール研究集会（主催：日本ハンドボール協会、主管：岡山県ハンドボール協会、後援：文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会）は、前回に引続き、「ボール運動教材としてのハンドボール」をテーマとして、平成18年8月10日（木）から11日（金）まで、岡山県桃太郎アリーナを会場として開催され、盛会裏に終了した。参加者は、講師と役員を除いても全国各地より60名近く集まり、多くの成果をあげた研究・実践報告や、学習指導要領改訂に関する最新の動向を踏まえた講演に聞き入るとともに、斬新な実技研修で汗を流したり、さらにはユニークで示唆に富む授業提案に関心を向けていた。

研究集会の概要は以下の通りであるが、詳細は刊行予定の「ハンドボール研究（第9号）」を参照していただきたい。

■8月10日（木）

[講　議]「体育・保健体育科教育に期待されること　―中央教育審議会の動向を踏まえて―」

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官（併）文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官　佐藤　豊

[研究・実践報告]

1.「ハンドボールを知らない教師にもできた授業」高本英樹（岡山県勝間田小学校）

2.「小学校スポーツ教材への取り組み：5年ハーフコートハンドの提案」村田正之（東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校）

3.「ソフトハンドボールの指導について」高松葉司（奈良県三宅町立三宅小学校）

4.「小学生の『投』『捕』運動の発達に関する事例研究―ハンドボール授業を通じて」丸井一誠（福岡大学スポーツ科学部）

5.「授業におけるゲーム分析とその手法に関する一考察」小山　浩（筑波大学附属中学校）

[実技研修]「ゲームでの動きをどう学ばせるか」東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校副校長　藤井喜一

■8月11日（金）

[授業提案]

9：00～9：45　「ハンドボール～ディジタル作戦版を使って」（5年）　授業者：後藤和重（岡山市立操明小学校）

10：10～10：55　「だれでも楽しめるぞ　ハンドボール」（3年）　授業者：山本　繁（盛岡市立玉山小学校）

[講　義]「ボール運動教材としてのハンドボール」筑波大学体育科学系教授　大西武三

■平成18年度第9回ハンドボール研究集会役員

岡山県実行委員会

会　長：生本純一（岡山県ハンドボール協会会長）

副会長：後山富士水（同副会長）、安東俊夫（同副会長）、村木利彦（同副会長）

委員長：森安昭雄（同理事長）

運営委員会

委員長　：瀬島和則（川東小学校）

副委員長：中谷幸生（同副理事長・御南中学校）

委　員　：信原悦治（同常任理事・岡山西小学校）、大森輝彦（同常任理事・大高小学校）、佐野邦夫（同理事・琴浦西小学校）、楢本邦明（同理事・勝山小学校）、畝本昭則（同理事・美咲町教育委員会）、山本圭司（岡山県スポーツ振興課）

■（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会

委員長：佐藤　靖（秋田大学）

委　員：大西武三（筑波大学）、角　紘昭（日本ハンドボール協会）、佐藤勝弘（新潟医療福祉大学）、南木雅弘（神奈川県立栗原高校）、小山　浩（筑波大学附属中学校）、山本　繁（岩手県玉山小学校）、小林和子（山形県飯豊中学校）、村山明夫（神奈川県立六ッ川高校）

平成18年度国内・外におけるアンチ・ドーピング活動の現況

—第15回DOHAアジア大会・第58回全日本総合選手権大会・男子第49回・女子第42回全日本学生選手権大会—

IHF/AHF M/C委員　西山逸成

アンチ・ドーピング活動は2003年以降、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の設立による一貫した啓蒙活動により人体の健康を守り、フェアプレーの精神の擁護のための活動が推進されている。

この世界的ドーピング活動の状況下で実施された第15回アジア大会、そしてアジア大会参加選手に課せられたアジア大会期間中（2006.11.20～12.15）の選手の居場所情報の届出をADAMSシステム（パソコンによる提出）がJOCにより決定されたことによるナショナル男女選手各個人ごとの届出の義務の実施等々でかなりの負担が課せられたことになる。

ADAMSシステムとはAnti-Doping Administoration and Management System＝アンチ・ドーピングの管理運営要領の意味で、IHF（国際ハンドボール連盟）・JADA（日本アンチドーピング機構）等のアンチ・ドーピング機関・公認分析機関における個人情報の共有データーベースである。

その背景として多くのスポーツ選手が真剣に努力しているクリーンアスリートの努力成果が正当に評価されない環境を排除するため即ち、努力成果が正当に評価される環境を保障するためのシステムであるので、アジア大会以降も引き続き次の項目の選手管理の基本情報としての活用が望まれる。

○TUE（Therapeutic Use Exemption＝治療のための薬物使用・免除申請書）
○ATUE（Abbreviated Therapeutic Use Exemption＝TUEの略式申請書）
○居場所情報…各4半期ごとの届出も随時の変更届出も選手責任で代理人制度も活用できる。
○競技会検査（CT＝Competition Test）
○競技外検査（OOCT＝Out of Competition Test）

1．第15回Dohaアジア大会におけるアンチ・ドーピングの概況

1）DAGOC（ドーハ・アジア大会組織委員会）と協調されたOCA（アジア・オリンピック協議会）

アジア大会におけるアンチ・ドーピング所掌は、17名編成のOCA医事委員会（委員長＝Dr. Yoshio Kuroda）で構成されており、ドーピング・コントロール担当は、アジア大会3年前から逐次編成されてきた世界各国から応募のDCO（Doping Control Officer）37名それに196名の国内外応募のシャペロン（ドーピング・コントロールの実務担＝選手抽出・誘導・採尿等）で編成され、各競技種目のドーピング担当として配置・運用されていた。

したがって、各競技種目の特殊性による競技場内における選手の抽出方法や抽出タイミングは各競技種目団体（IHF/AHF）のスーパーバイザーであるDCO（アジア大会ではM/C委員長Dr. Issei Nishiyama）の担当であった。

2）リハーサル大会；第15回アジア大会のプレ大会としてDohaで実施された以下の2大会で既に2回試行・錯誤でOCA/MCとIHF/AHFとの節調済みであったので、受検対象のチーム選手・役員には違和感は無かったようである。

①2005年2月　男子Jr世界選手権大会
②2005年12月　男子西アジア選手権大会

3）第15回大会のドーピング・コントロールの担当組織

①ドーピング・コントロール競技種目担当本部；
Dr. Abdul Wahab Al Mussleh以下……10名
競技種目担当責任者……23名
ハンドボール競技担当主務者
DCO Dr. Mohammed Hayat Kazumi

②ドーピング・コントロール実施日の編成基準（検査班　2個班）
DCO…… 毎回4名
シャペロン…… 毎回9～11名
OCA視察員……随時2～3名
IHF/AHF……DCO　Issei Nishiyama M.D

4）第15回大会のドーピング・コントロール実施状況

日／（曜）	男子選手	女子選手	ドーピング・コントロール実施時間
12/3（日）	UAE②—UZB②		試合終了後21：30～24：30
4（月）	UAE②－UZB②		試合終了後21：30～24：00
5（火）			
6（水）	BRN②—QAT②		試合終了後19：30～22：30
7（木）	QAT②—IRN② KSA②—SYR②		試合終了後19：30～22：30 試合終了後21：30～24：00
8（金）		KAZ②—IND② CHN②—UZB②	試合終了後11：30～14：00 試合終了後13：30～16：00
9（土）			
10（日）		THA②—TPE②	試合終了後17：00～19：30
12（火）			
13（水）		KOR②—KAZ②	試合終了後19：30～22：30
14（木）	KUW②—QAT②		表彰式終了後20：00～23：00
（小計）	（24名）	（16名）	検査総人員＝40名

①検査総検体数は40検体であった。

IHF/AHF規則による検査基準には、予選リーグ各チーム、各1名とされているが、あくまでも基準であるが、1検体の検査料がUS300/$では、人件費とあいまってかなりの金額になるのであろう。

また、今回の検体分析はロンドンLABOであるため、分析時間に長時間を要するための決定検体数になったのであろう。

②IHF/AHF規則では、検体の分析結果は当該選手チームの次試合開始1時間前に判明することが規程されているが、本アジア大会では、この規則条件は適用外とならざるを得なかった。

このことは、日本における国際大会でも適用の可能性を示唆したものと柔軟に理解しておきたい。

③ドーピング検査の対象試合数は、10試合であり、総試合数59試合（男子45・女子14）の17%、検対数40は総選手数（男子の15チーム、女子8チーム計350名）の12%程度であった。今後の参考基準にしたい。

2．国内におけるアンチ・ドーピング活動

1）大会におけるドーピング・コントロール

大会名	期間（場所）	主催・主管	経費負担先（検対数）
男子Jrアジア選手権大会	2006.8/22～31（広島、東区体育館）	AHF.JHA.広島県協会	JHA,広島県組織委員会（12）
第61回国民体育大会	2006.10/9/10（兵庫、三田市体育館）	兵庫県、JHA	JADA, JHA（10）
全日本学生選手権大会	2006.11/16～20	名古屋市体育館	JADA, JHA（8）
全日本総合選手権大会	2006.12/23～24	愛知県体育館	JADA, JHA（8）
第31回日本リーグプレーオフ	2007.3.17～18	駒沢体育館	JHA, JHL（?）

2）競技外検査；

JADAによる競技外検査は実施されたが、現在JHAとしての現況が把握されていない。

IHF & AHFによる競技外検査の必要性は、IHF & AHF M/Cミーティングでは要望されているが、未計画である。

3）NA男女＆JHL選抜選手へのアンチ・ドーピング講習会；

第15回アジア大会参加選手に対する居場所情報の報告の必要性に関連し、ADAMSシステムやアジア大会における競技会検査、競技外検査、血液検査の可能性、薬物類の使用注意、サプリメントの摂取等についての心得等についての講話を実施した。

3．近時のドーピング・コントロールの留意事項と対応について

1）競技中、レッドカードを宣告された選手の扱い

2006年度からの適用罰則であるので理解されていない面があるが、AHF規則条文では、「試合中にレッドカードが提示された場合、当該チームのスタッフ1名は抽出選手の氏名判明まで当該選手とともにドーピング検査所にいなければならない。」(AHF3-7)

したがって、Dohaアジア大会においては、このルールに従って、レッドカード選手の定位置を決め当該選手とチームスタッフを監視する態勢をとった。

2）レッドカード選手の退場によって、チームスタッフも帯同退場という戦力減に繋がる状況から、アグレッシブなプレーを排除しようとするクリーンハンドボールに繋がることを期待したいものである。

4．今後のアンチ・ドーピング活動に関与する理解・協力者の養成について

今後、国内外におけるアンチ・ドーピング活動は日本政府がスポーツ選手の禁止薬物使用の防止と撲滅を目指す「反ドーピング条約」（読売新聞2006.12.24）の批准方針や各分野の活動状況からみても、益々広げられてゆく風潮にあるので、検査室とコートの両面を理解したDCO/シャペロンとして是非ハンドボール競技規則に通暁した人たちも含めてハンドボール関係者のアンチ・ドーピング活動を広げて欲しいものである。年に1～2回の中央講習会等に参加頂ければありがたい。

前3項の関連から若手層の育成を狙って、選手経験者や公認審判員の方々にお願いしているところである。

研修体験記を誌上に紹介させていただきました。

5．研修体験記

東京理科大学ハンドボール部　塚本　光（4年）

2006年11月16日から20日にかけて名古屋にて開催された全日本学生ハンドボール選手権大会（インカレ）と、12月20日から24日に開催された全日本総合選手権大会に、ドーピング・コントロールのシャペロンとして参加させていただきました。ドーピング検査は両大会とも男女決勝のみで実施されました。準決勝で実務研修を行う為、私はその前日に現地入りしました。

シャペロンは、試合中ベンチの後ろに座り、試合を見守り、出場選手のチェック、警告・退場選手のチェック、失格選手の誘導、ドーピング対象選手の誘導が主な仕事です。検査対象選手の誘導と言っても、コートから検査室の誘導だけでなく、試合終了後におけるその選手の行動には全て同伴しなければなりません。また、インカレではドーピング検査にも立ち合わせていただきました。

試合中はベンチ後ろから試合の動向や選手の行動を見なければならないのですが、日本の学生チャンピオン、そして日本チャンピオン決定の試合を間近で観戦できる為、ついつい見入ってしまう事が多々ありました。監督やコーチの指示が聞こえてきたり、ベンチの雰囲気、控え選手の在り方、試合の流れや迫力を感じ取る事ができました。

また、現在私は審判技術向上に努めています。今年度は関東学生リーグ3部を担当させていただきました。今回の参加における私のテーマの中に、審判の勉強も含まれています。審判の立ち位置・動き・仕草・顔の表情、ベンチや選手からの不平・苦情に対する対処法など多くの事を学ぶ事ができ、気付く毎にメモをとり、観戦していました。

今後も、多くの試合を経験しながら審判技術向上を目指したいと思っています。また、来年9月に豊田市で開催される北京オリンピック予選にもドーピング班として参加する事を考えており、是非とも日本が出場権を手にする事を願っています。

最後に、今回私にドーピング・コントロールのシャペロンとして、インカレ・全日本総合帯同という素晴らしい機会を与えて頂きました西山先生、さらに帯同に関してご指導、ご支援して下さいました多くの方々、スタッフのみなさまに感謝申し上げます。

スコアールーム①　第4回日本車椅子ハンドボール競技大会

開催期日：2006年11月18日（土）～19日（日）
会　場：兵庫県・姫路市立中央体育館

▼予選リーグAブロック

宮城フェニックス	44－2	神戸ドルフィンズ
宮城フェニックス	30－11	ファインクライフ
宮城フェニックス	34－23	近福大介護福祉
近福大介護福祉	33－11	神戸ドルフィンズ
近福大介護福祉	34－10	ファインクライフ
ファインクライフ	24－10	神戸ドルフィンズ

【順位】①宮城フェニックス（宮城）②近福大介護福祉（兵庫）③ファインクライフ（大阪）④神戸ドルフィンズ（兵庫）

▼予選リーグBブロック

近畿福祉大	24－16	大阪体育大
近畿福祉大	37－8	徳島すだち
大阪体育大	21－4	徳島すだち

【順位】①近畿福祉大（兵庫）②大阪体育大（大阪）③徳島すだち（徳島）

▼予選リーグCブロック

ドリーマーズ	21－16	近福大社会福祉
ドリーマーズ	33－2	川崎医療福祉大
近福大社会福祉	39－4	川崎医療福祉大

【順位】①ドリーマーズ（京都）②近福大社会福祉（兵庫）③川崎医療福祉大（岡山）

▼決勝トーナメント1回戦

近福大社会福祉	23（12―7、11―11）18	大阪体育大
近福大介護福祉	28（16―10、12―16）26	ドリーマーズ

▼準決勝

宮城フェニックス	22（12―7、10―6）13	近福大社会福祉
近畿福祉大学	26（10―4、16―10）14	近福大介護福祉

▼3位決定戦

近福大介護福祉	19（12―9、7―9）18	近福大介護福祉

▼決勝

宮城フェニックス	22（12―12、10―9）21	近畿福祉大学

スコアールーム②　男子第49回・女子第42回全日本学生選手権大会

開催期日：2006年11月16日（木）～20日（月）
会　場：愛知県・中村スポーツセンターほか

【男子】

▼1回戦

日本大	26（14－7、12－15）22	名城大
富士大	38（17－14、21－18）32	中京大
松山大	31（15－10、16－9）19	道都大
中央大	33（15－14、18－11）25	大阪経済大
日体大	43（21－9、22－14）23	関西学院大
福岡大	31（17－13、14－15）28	国士舘大
東海大	26（9－12、17－13）25	同志社大
東和大	30（8－8、13－13）24 （4－2　延長　5－1）	秋田大
筑波大	28（14－11、14－12）23	大同工大
中部大	50（25－14、25－10）24	東北学院大
桃山学院大	36（17－14、19－14）28	東北福祉大
早稲田大	37（18－11、19－13）24	関西大
法政大	39（23－13、16－20）33	名桜大
順天堂大	33（14－13、19－13）26	高松大
函館大	44（21－20、23－13）33	琉球大
大阪体大	58（28－6、30－12）18	金沢大

▼2回戦

日本大	39（20－18、19－13）31	富士大
中央大	40（21－11、19－17）28	松山大
日体大	31（18－16、13－11）27	福岡大
東和大学	34（15－17、19－15）32	東海大
筑波大	29（16－11、13－17）28	中部大
早稲田大	34（19－8、15－10）18	桃山学院大
法政大	32（16－12、16－15）27	順天堂大
大阪体大	32（20－11、12－14）25	函館大

▼準々決勝

日本大	21（7－9、14－11）20	中央大
日本体大	45（27－10、18－11）21	東和大
早稲田大	38（19－15、12－16）34 （3－1　延長　4－2）	筑波大
大阪体大	32（14－17、18－11）28	法政大

▼準決勝

日体大	28（15－14、13－12）26	日本大
早稲田大	28（15－11、13－12）23	大阪体大

▼決　勝

日体大	35（16－16、12－12）33 （2－2　延長　5－3）	早稲田大

【女子】

▼1回戦

福岡大	50（25－3、25－2）5	北星学園大
東海大	34（15－9、19－5）14	岡山大
関西大	28（11－12、17－15）27	富士大
日女体大	29（16－2、13－9）11	沖縄国際大
早稲田大	34（18－12、12－18）33 （1－1　延長　3－2）	天理大
東北福祉大	25（10－14、15－7）21	愛媛短大
国士舘大	20（10－9、10－10）19	京都教大
中京女子大	33（15－13、12－14）31 （2－1　延長　4－3）	小松短大

▼2回戦

大阪教大	29（12－12、17－8）20	福岡大
日体大	20（8－11、12－8）19	東海大
武庫川女大	33（14－11、19－8）19	関西大
東女体大	44（23－13、21－9）22	日女体大
福岡教大	33（18－8、15－14）22	早稲田大
茨城大	26（17－9、9－6）15	東北福祉大
大阪体大	24（12－7、12－8）15	国士舘大
筑波大	44（19－1、25－8）9	中京女子大

▼準々決勝

大阪教大	32（17－7、15－9）16	日体大
東女体大	23（12－8、11－12）20	武庫川女大
茨城大	26（11－13、15－11）24	福岡教大
筑波大	30（14－9、16－11）20	大阪体大

▼準決勝

東女体大	26（10－13、16－9）22	大阪教大
筑波大	37（19－6、18－7）13	茨城大

▼決　勝

筑波大	24（14－10、10－13）23	東女体大

協会だより

平成18年度全国理事長会議

期　日：平成18年10月22日（土）
15：30～17：20
場　所：兵庫県高砂市「勤労者総合福祉センター」２Ｆ「研修室１」
出席者：
各都道府県協会理事長
武田節夫、佐々木孝之（横山代理）、谷藤勝美、今野正志、高山重雄、後藤義信、安田博之、上久保重次、内記英夫、大塚文雄、小見幸男、竹内佳明、寺崎　修、城川俊久、久保田龍治、村木啓作、杉本眞一、前川和三、大羽隆夫、中村博幸、大原康昇、奥田政俊、塩崎信治、森安昭雄、山本　一、野村幹雄、田中達男、武田末男、田中　守、土井　担、新井善文、大宮　泉、佐藤喜一、岡山明弘、半田正史、稲生　茂、西村亮治
日本協会役員
市原則之、大西武三、村松　誠、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、木野　実、兼子　真、島田房二、竹野奉昭、殿水幸雄、中野利一、茂木　均（JHL事務局長）
オブザーバー
金原　至、宝住哲郎、飯山　進
司会進行　村松　誠

1．協会挨拶　日本協会副会長　市原則之
2．国体開催地挨拶
兵庫県協会副会長　狩野幸介
3．日本協会表彰
・贈呈者　市原副会長
・受賞代表者　狩野幸介（兵庫）
4．本日の理事長会開催にあたって
専務理事　大西武三から挨拶　日本ハンドボール協会の現状について
・普及概念、登録人口の推移、他競技との競技人口比較
5．強化対策について
強化本部長　蒲生晴明
・第15回アジア競技大会全日本男女代表メンバーについて
・ジャパンカップ2006について
・北京オリンピック予選のシステムについて
6．普及対策について
普及本部長　角　紘昭
・各ブロックにおける少年チーム指導者の実態について
7．日本リーグの現況と将来構想について
日本リーグ機構会長　市原則之
・プロジェクターによる説明
・企業スポーツ存続の手立て・何故日本でハンドボールがメジャーにならないのか・メジャー化を目指し意識を変え、自助努力による自立・開催地の役割・日本リーグトータルシステム
・日本トップリーグ連携機構について
・日本リーグ機構法人化計画について
日本リーグ事務局長　茂木　均
8．マーケティングについて
マーケティング本部長　木野　実
・コミュニケーションロゴマークについて
9．10万人会から　担当参事　中野利一
・サポート会員の増大のお願いについて
10．その他
・中学生の個人登録についてどうなっているか（村木愛知県協会理事長）→平成20年度からの実施で検討している（大西専務）
・公式記録用紙の電算化について（佐藤長崎県協会理事長）→現在導入できるように電算用記録用紙の選定をしている（江成常務）
・全国春の中学生大会挨拶（金原富山県協会会長）
・国体組合せ抽選方法について（大原兵庫県理事長）→国体検討プロジェクトを検討したい（大西専務）
閉会　閉会の挨拶　監事　竹野奉昭

平成18年度第２回理事会

日　時：平成18年11月25日（土）
13:00～15:30
場　所：岸記念体育会館２Ｆ理事監事室
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：山下　泉、大西武三、村松　誠、角　紘昭、木野　実、平岡秀雄、兼子　真、島田房二、大畑孝広、福地賢介、森安昭雄、高山重雄、西村亮治、宮元章次
監事：大野金一、竹野奉昭、殿水幸雄
参事：山下勝司、佐々木英明、古屋正俊、小西博喜、武田節夫、稲生　茂、竹内佳明、野村幹雄、武田末男、笹倉清則、本間誠章
欠席者（敬称略、名簿順）
理事：渡邊佳英、市原則之、蒲生晴明、江成元伸、川上憲太、西窪勝広
以上、出席理事14名、委任状出席６名、出席監事３名、出席参事11名、事務局１名

〈理事会成立の確認〉
定刻に開会し、村松総務担当常務理事より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた、理事現在数20名中委任状出席を含め20名の出席にて３分２以上の出席があり定足数を満たしており、本理事会が成立していることが報告された。次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第３項に基づき、会長が議長となるが、会長が所用のため委任状出席のため、寄附行為第18条第２項に基づき、山下副会長が議長代理を務めることが報告された。
山下副会長より会議開始にあたり、本日16時より新高輪プリンスホテルでアジア競技会日本選手団の結団式があるが、本協会の市原則之副会長が日本選手団の総監督を務めること、ハンドボールは来年の北京オリンピックアジア予選の前哨戦ともなり好成績を本大会で納めて、同予選に向かって欲しいことが述べられた。また、男子予選が愛知県豊田市での開催であり、この大会への支援と協力が求められた。
〈議事録署名人の選出〉
続いて、山下議長代理より議事録署名人の指名が行われ、議長山下泉副会長、大西武三専務理事、木野実常務理事、西村亮治理事が指名され、満場一致で承認された。

審議事項

1．強化（女子チームコーチ、遠征中止・追加）について
蒲生強化本部長がアジア競技会日本選手団結団式準備により理事会は欠席のため、大西専務理事から説明がなされた。
1）女子ナショナルチーム荷川取義浩コーチの辞任について
本年から所属チームの監督に再任されたことによるチーム事情と、本人の体調から辞任の申し出があったので、これを認めて貰いたいと説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
2）JOC専任コーチ、ジュニア強化コーチ、ユースエリートの選出について
まだ、JOCから新年度に向けての書類が近々届く予定であるが、これらの選出については、強化委員会に一任して欲しいことがお願いされた。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
3）男子ナショナルの中東遠征中止と女子ジュニアチェコ遠征追加のお願い
当初計画していた男子ナショナルの中東遠征を中止させたいことと、女子ジュニアのチェコ遠征を新たに国内合宿に変えて実施したいことがお願いされた。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
2．第10回アジア男子ジュニア選手権決算ついて
大西専務理事より、主管地広島県協会から提出された決算書について、収入特に協賛金が予定したようにはいかず、900万円ほどの赤字になることが報告され、一部は広島県協会で残りは日本協会が補填することが説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
3．平成18年度事業計画変更に伴う第二次補正予算（案）
村松常務理事より、第二次補正予算案について説明された。但し、第三次補正は行わないことにしたので、今後若干の補正の可能性があり、最終的には２月の理事会で承認を受けるようにし、今回は中間収支報告としたいと説明した。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
4．評議員旅費の支払い改訂について
昨年度来から懸案となっている評議員の旅費負担について、大西専務より案が示してあるが、２月の評議委員会で評議員自らに決定して貰うことが説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。
5．読売新聞社「日本スポーツ賞」推薦について
村松常務理事より、2006年の読売新聞社

「日本スポーツ賞」の候補として、10月に日本リーグ史上初となる1,000得点を達成した岩本真典選手（大崎電気）を推薦したいと提案された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．北京オリンピック男子アジア予選豊田大会実行委員会について

大西専務より、来年の北京オリンピック男子アジア予選豊田大会の実行委員会案が示されているが、先の常務理事会で組織委員会を作った方が資金集めには良いとの意見が出され、愛知県協会などと協議して決定することが述べられた。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．第61回国体岩手県成年女子参加資格違反について

兼子事務局長より、第61回兵庫国体終了後に岩手県成年女子の交代選手に参加資格違反があり、その経緯・経過について説明があった。日本協会としての処置は、日体協の処分に準じ、選手個人には懲罰を科さず、岩手県協会会長宛に厳重注意とすることが提案された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

8．中学生種別個人登録料について

大西専務より、昨年度より議論を進めてきた中学生種別の個人登録料導入については、まだ末端の指導者、競技者に周知がされていないと判断し、今後説明をしてゆくことで、理解を求め、平成20年度に実施することが説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

9．国民体育大会を契機とした振興策について―プロジェクト発足―

大西専務より、10月の常務理事会で提案された国体改革プロジェクトの発足について、説明がされた。今後の活動方法についてはプロジェクト長を中心に委員を決定し、審議してゆくことが示された。プロジェクト長として、関東協会理事長稲生茂参事が推薦された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

10．コミュニケーション・ロゴマークの使用規程について

木野常務理事より、先の理事会にて本協会のコミュニケーション・ロゴマークとして決定されたマークの使用規程について提案された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

11．第31回IHF通常総会動議、2011男子WC入札について

大西専務より、IHFより送付されてきた第31回IHF通常総会の動議と2011年男子世界選手権入札について、総会動議は提出せず世界選手権入札はしないと説明された。審議の結果、全員異議なく本件は可決承認された。

報告事項

予定された報告事項に入る前に、各連盟、ブロックの報告をして貰うこととした。

1）全日本実業団連盟――大畑理事より、チーム数の減少、実業団選手権などについて

2）全日本学生連盟――福地理事より、本年の世界学生、インカレなどについて

3）全国高等学校体育連盟専門部――本年度からの個人登録料の導入、選抜大会30回記念、大会における暴力事件など

4）全日本教職員連盟――教職員大会、マスターズ大会などについて

5）日本中学校体育連盟競技部――全国大会3大会などについて

6）全国高等専門学校体育協会競技専門部――競技の活性化に伴う競技人口は微増などについて

7）日本車椅子連盟――4回目を迎えた大会の社会的認知、韓国との交流などについて

8）指導普及委員会――秋田国体公認指導者資格必須に伴う公認指導員養成講習会開催などについて

9）ビーチ専門委員会――国内大会の充実、国際大会参加の検討などについて

10）四国協会――全中大会、日本リーグ集中開催、公認指導者講習会などについて

11）中国協会――レベルダウンへの底辺充実のための小学生チームの創設などについて

12）北信越協会――ブロック組織の閉鎖性の解消などについて

13）関東協会――NTSへの要望、次年度国体開催県役員の運営参加などについて

14）北海道協会――少子化と広範囲に伴う大会コスト高などについて

15）九州協会――ブロック協会の役割を模索中などについて

16）東海協会――西クラブ大会、マスターズ、インカレ、全日本総合などについて

17）東北協会

1．強化（ナショナルチーム予定）ついて

大西専務より、説明された。

1）アジア競技会のアディッショナル役員として小笠原氏、斉藤氏を派遣。

2）男女ナショナルがジャパンカップ2006で優勝

3）女子U20が女子ナショナルと合同合宿

4）強化委員会を10/29に開催

5）NTSセンタートレーニング12/3に開催。

2．事務局職務分担について

大西専務より、平賀事務局員が退職し床尾事務局員を新たに採用したことが報告された。また、日本協会の組織図、執行組織図について説明がされた。

3．公益法人制度改革の概要について

兼子事務局長より、公益法人制度改革に伴い、法律が施行された後は、法人の選択（公益法人か一般法人か）をし、申請をし直さなければならないことが説明された。

4．文科省スポーツ振興基本計画について

大西専務より、文科省が改めて策定したスポーツ振興基本計画に概要が説明された。

5．日本オリンピック委員会役員選出方法について

兼子事務局長より、委員会役員選出方法が若干変更されたことが説明された。

6．平成19年度SSFスポーツエイド交付事業募集について

兼子事務局長より、笹川スポーツ財団からの平成19年度の事業募集について応募促進がお願いされた。

7．平成19年度会議日程案について

兼子事務局長より、平成19年度の会議日程案について、大会や役員改選により変更もあることが説明された。

8．平成19年度国内・国際・ブロック大会日程について

兼子事務局長より、平成19年度国内・国際・ブロック大会日程について、まだ全て網羅されていないので、引き続き担当都道府県協会から詳細について連絡して欲しいことがお願いされた。

9．大会結果・大会予定について

兼子事務局長より、10月以降の大会結果及び今後の大会予定について説明があった。

10．審判部から（審判技術の向上への鍵、ヤングレフェリー育成プロジェクトについて）

島田常務理事より、ジャパンカップ2006の際に開催されたレフェリー研修会資料で配布した資料の一部で、ブロック審判長に配布する予定と説明された。また、IHFが送付してきたDVDに審判部で編集作業を行ったもので、日本語版DVDとして近々販売することが報告された。来年度から本格的に実施するヤングレフェリー育成プロジェクトについて、岩手県で試験的に行った際に作成した資料を添付した。是非とも若い審判育成を行っていって貰いたいと要望された。

11．国際大会日程・EAHF会議について他

平岡常務理事より、国際大会日程および東アジアハンドボール連盟の会議について説明があり、山下副会長が平成19年から会長に就任することになったことが報告された。

12．JOCからのお願いについて

兼子事務局長より、スポーツ団体の正常化運営についてJOCからのお願いで、地方の任意団体もこれに習って貰いたいことが説明された。

13．マーケティングについて

木野常務理事より、現在日本協会が薦めているマーケティング活動について説明があり、企業関係者の紹介などが依頼された。また、著名人のファンクラブ形成が有効であるとのこともあるので、芸能人などでハンドボール経験者を知っている場合は連絡をお願いされた。

14．がんばれハンドボール10万人会について

平岡常務理事より、10万人にあと一歩であり、各都道府県での10万人会への入会促進をお願いしたい。特に“0”の所は努力を依頼された。

15．その他

竹野監事より、本年のマスターズ大会の際にナショナルＯＢ・ＯＧの集まりの話しがあり、12/23に名古屋での全日本総合で集まることにした。今後有意義な活動をしてゆきたいと考えていることが説明された。

予定していた議案について全て終了した。最後に大野監事より労いの言葉が述べられ、15時30分に平成18年度第2回理事会は閉会した。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【北海道】高橋英明 **【岩手】**箱崎敬吉 **【栃木】**坂本定芳 **【群馬】**岡部千秋、高橋　潔 **【埼玉】**豊田貴之、岡村昭二 **【千葉】**佐藤由佳子、藤田八郎、窪田　優 **【東京】**蒲生澄子、川上整司、佐藤俊男、佐藤映子、三浦丈治、堀江成典、岡前義春 **【神奈川】**宮脇明紀、田原やよい、加古川正巳、白井香代子、丸山玲子、丸山貴史 **【長野】**服部博幸 **【新潟】**庭山政幸 **【富山】**吉水慎一、高林　史、竹内貞明 **【石川】**伊藤義直 **【福井】**松岡幸雄、佐々木静夫、角谷喜代重 **【愛知】**佐藤壮一郎、片岡拓朗、西口誠一郎、野田　清、宮地光男 **【三重】**大石博義、細野秀男 **【滋賀】**高畠典克 **【京都】**守本幸三郎、大渡利巳、大渡健太郎 **【大阪】**山中善之祐、平田光徳、深田礼子 **【兵庫】**簗瀬ちなみ、狩野幸介 **【奈良】**松江　徹、松江真理子 **【鳥取】**足立逸郎 **【岡山】**木村博子、木村佳菜、奥埜美峰、奥埜啓子、三宅裕也、幡多啓二、松本早苗、木村菜見、岡田拓也、植田友紀 **【広島】**樋野村　勉、白石　隆、山本伸二 **【香川】**大高恒貴 **【愛媛】**越智　誠、越智理佳、越智裕介、越智皓平、越智聡郎、加藤誠一 **【高知】**松浦実砂 **【福岡】**宮内貴博

【2月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

2月 3 日(土)　第2回評議員会(東京)
2月17日(土)　常務理事会(東京)
2月17日(土)　第3回理事会(東京)
2月18日(日)　事務取扱責任者会議(東京)

【大会】……………………………………………………

2月9日(金)～11日(日)
全日本実業団チャレンジ2007(高知市)

北京オリンピック出場応援キャンペーン募金のご報告

北京オリンピック出場を目指す代表チームの支援のため、日本協会では各種大会で皆様からの応援の募金をお願いしております。お陰様で下記の大会で、以下のような募金をいただくことができました。ご協力ありがとうございました。

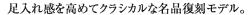
全日本学生選手権大会・全日本総合選手権大会　9,018円
JOCジュニアオリンピック　1,145円

HAND BALL CONTENTS Feb.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド®JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0〜29.0cm

名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド®JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0〜29.0cm

株式会社アシックス

表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

世界の空へ、笑顔を乗せて。

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七七号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十九年一月二十六日印刷 平成十九年二月一日発行

東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表 〇三—三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円